WASON
HQ
1104
J74+

Nov. 1890
no. 239

女學雜誌

明治二十三年十一月十五日發行

第二百三十九號

一冊六錢。毎土曜日發兌

女學雜誌改進の主旨及方向明らかに記述せらる必らず一讀ありたし

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

雜 女
The Woman's Magazine.
(JOGAKU ZASSHI.)

No. 238. NOVEMBER, 15TH. 1890.

EDITORIAL :—Hiro Worship.

MISCELLANEOUS :—What is the Purpose of Female Students of To-day? (Shimidzu Toyo). On Reading the Life of Mr. Tanabe Jiro, (Ando Tarō). A School Girl, thinking of her distant home, (Suzuki Gen). Consumption, (Nitta Keijirō). Thoughts of an Autumn Evening, (Unpōshi). The three bad habits of "Utai," (Hizen Fukiwo). "Tear drops." Take heed, the Female Students of To-day! (Usui Sanjin). Of what are the Priests and teachers composed? Humorous, (Sharakusai).

NOVEL :—" The New Pilgrim's Progress."

CRITICAL NOTES :—The Literature of To-day.

OPEN LETTERS :—

NOTES AND NEWS.

CORRESPONDENCES.

CONCERNING WOMEN.

第二百三十九號目次

社説　英雄崇拜

雜錄　當今女學生の覺悟如何(淸水豊子)●田邊次郎一君小傳を見て(安藤太郎)●學びの窓に古郷を思ひて(鈴木げん子)●肺勞(仁田桂次郎)●秋夜感懷(雲峯子)●謠の三病(肥前不稀雄)●淚滴々●心せよ今日の女學生(碓氷山人)●僧侶教師の成分●きよめぬ庭(洒落齋主人)

小説　新天路歷程(湘川漁夫澤)

批評　明治女小學䕺草●明治女大學●德育鎭定論●現今の文章上●衛生療病誌●我樂多雜誌

開書　德富猪一郎氏よりの正誤文

時事　市會の宇川氏事件は如何ん●血と肉●國家、個人、●千歳の菊●草木なりせば●英國人と日本人との結婚●能樂の男女混合●香港の改正婦女保護令●孿男女なき世界●キングス、ダウター●女學生と外國語●山内善三郎氏夫人●岩田そう子●製糸女紅場●

通信

片々

週報

東京 廢娼運動費 募集 廣告

廢娼の急務たるとは今更に辨ずるを待たず。社會の改良此に淵源し、公共の風儀此より改まり、青年の志氣之が爲めに奮ひ、敎育の淸潔之か爲めに固く、女學の進歩此に依りて健やかならん。ゆえに廢娼の一日後るゝは、國家大計の成立一日後るゝなり、四民ともに慟哭痛歎する所ろなかる可らず。吾輩此に慨し、曩に東京廢娼會に加盟し、只管ら運動に助勢しぬ。其力足らざるに非ず、資に乏しきとを歎くのみ。今玆に、帝國議會開け、志士雲の如く集まり、府下の景勢大に勃隆せんとす。吾輩廢娼上の運動も亦頻煩ならざるを得ず、爲めに資を要すると少しとせず。仰ぎ願ふらくは四方同志の諸君、切に吾輩の微志を察し、其運動費の幾分を助捐し、以て此の急緊切要の事業をして、速かに成効就了せしめんとを、道の爲めに敢て四方に請ふ。

小則

一　義捐金は下六番町六番地女學雜誌社にて取次ぎ、東京廢娼會へ轉送し、同會の運動費に合用せしむ。

二　義捐者の姓名及金數は、女學雜誌、日本評論、福音週報、基督敎新聞に於て廣告す。廣告は受取證に代ゆ。

三　運動費募集の會計、及び運動使用途の報告は、時々四雜誌に於て同樣廣告すべし。

右運動費募集發起人總代(イロハ別)

巖本善治	飯野吉三郎	星野光太	德富猪一郎
大西祝	渡瀨寅二郎	渡邊泰	金谷昭
横井時雄	田村直臣	田井正一	根本正
中濱東一郎	植村正久	植木枝盛	黒岩周六
小島官吾	木村熊二	木村駿吉	湯淺二郎
三宅雄二郎	島田三郎	平岩愃保	森林太郎

誌 學

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

改進の預告

女學雜誌平素の志望は今更に喋々せじ。其の何如にして生れ出で、又何如にして生ひ立ち、又々何如にして時勢の必要に應ぜしかの經歷は今又事々しく述ぶることあるまじ。左れど、女學雜誌は、世に幾多の婦人雜誌ありて夫々の用を爲し各自の長所を發揮する時に於ては、彼等が爲し得べき限りは彼等の爲し得る儘に任せ、女學雜誌は敢て彼等が爲さゞる所ろを爲し、以て少さか女學界の欠典を補わんとせり。之が爲めに、女性に多く讀まるゝことを求めずと宣言せしこともあり。又止を得ず新聞紙條例の下に立つて多少政論を試みんと布告したることもあり。女學雜誌が希ふ所ろは、婦人雜誌の万能膏たらんことを欲するにあらずして、其仲間のうちの尤とも爲し難き、需めの尤も狹き、隨て實高の至て少なき部分を望みて敢爲豪任せんことを欲するにてありき。一言するに、願わくは婦人雜誌中の改革者、即はち一方に於ける惡まれ者、又婦人雜誌中の先導者、即はち或意味に於ての孤立者とならんことを覺悟せしにあり。

此精神と覺悟とは今尚ほ勃々たり。恐らくは永遠に斯の如くあらんことを期望す。左れど、今や他の幾多の婦人雜誌落々として退々に失せ行き、僅かに殘る所ろの三種は、一は佛教を講ずるのみ、一は文章を掲ぐる耳、一は雜駁に只集むる耳なることを思ふに於ては、女學雜誌は今や亦た更に一つの責任を負はざるを得ず。加ふるに女學生の半途にて學を休めしものも多く、又新たに女學の必要を說き聞かせねば成らぬ向も多くなれり。

要するに女學雜誌は其一半を割きて其二三年以前の昔しに立反り、即はち甞て他の婦人雜誌なかりし時の昔し、又甞て諄々として女學の必要を講述せし時の昔しに反へりて、平易に、且つ手廣に、四方に叫び聞こゆる所なかる可らざるの時節と爲りぬ。故に、女學雜誌は、此際更に一段の改進を爲し、大率ね左の如き條々に於て大ひに變革する所ろあらん。

一　文字を平易にし、事柄を實際にし、尋常の婦人、及び女學に心得なき者にても、能く分るやうに諄々懇ろに說明する事。

二　故に女性の記者八名を新に聘し、家政、其他婦女子百般の心得を實際に說明する事。

三　左れど女學雜誌目下の躰裁を減失し去らんことを恐れ、毎月一回本紙半分の大附錄を添へ、大問題に對し大議論を爲すべし。

四　故に、平易及び實際となれる每週の女學雜誌に、此の月一回の大附錄を併せ覽れば、從來女學雜誌の面目は一層煥發すると同時に、實用快樂の記事饒多に增加したることを覺ゆべし。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌改進大畧

帝國議會の議事初めて催さるゝの日、日本の國勢將に一開變せんとするの初期日たる、十一月廿九日發行の女學雜誌第二百四十一號より、著しるしき改進を爲す。面目新らしく變はり、光彩一きは目立つとなるべし。

即はち、欄を、社說、言行、雜錄（集會談話の速記、訪問の記錄、反譯、其他樣々の項目を含む）、家政、小說、兒籃、批評、文學、理學、笑草、問答、寄書、隨感、時事、新誌、女報、週報、物價、統計、紹介、の二十欄に分ち、從來掲載したる項目の外に、實際の家政經濟取締の件、細君及母親の心得となる覺悟、佳人英雄善者義人などの言行、文學理學などの俗解、物のねだん、病人の取扱方、一切の女の心得向などを、尤も平易に且つ尤も面白く講述せんとす。

之が爲めに、從前の社員の外に、更に女記者八氏を聘し、各得意の欄に應じて秀妙有益の執筆を請ふべし。中島俊子女史は警拔俊秀の靈文を以て、時事問題を評し、且つ寸鐵殺人の短詩を以て同胞に警告する所あらんとす。若松しづ、田邊花圃の兩女史は、其純潔なる思想又は其才慧なる運筆を以て、各自特得の小說を起草せんとす。女子師範校の卒業生たり、日本女醫の破天荒たる荻野吟女史は、衛生、看病の項目を懇ろに講話あらんとす。同じく女子師範校著名の卒業生にして多年理化學を研究し且つ長年之を教授ありける吉田伸子女史は、理學を平易に又樂しみ多く解釋せられんとす。明治女學校速記科第一回卒業生安藤たね子は、四方の有益なる講談會に臨みて、有益なる談話を筆記し、讀者をして坐ながら、諸大家の談話を聽聞せしめんとす。又た、家政學を創起せんとに熱心し、現に之を研窮し亦常に之を教授せらるゝ所ろの小島きよ女史に請ふて、家政及び兒籃に信仰あつき最と潔ぎよき說話を掲げんとを欲す。而して、淸水豐女史は、專ぱら、主筆、編輯の任に當り、全躰の責めを負はんとす。但し、巖本善治が女學雜誌に關係する所ろ敢て今日迄と異なるとなし。

女學雜誌は、今后如此く、平易に且つ面白くなるべし、左れば、往來不背の意見を棄てずして其改革主義の慷慨論あるとに愛顧せられたる讀者諸君は、如此き改進を以て或は不滿足と爲し玉ふともあるべし。吾人も亦之を懼む。故に、月一回の大附錄を添へ、之に於て愚見を十分に吐露し、女學雜誌相應の大議論を公けにすべし。

今后女學雜誌は、始んど完備したる「家の雜誌」西洋所云るホーム、ジョウナルとなるべし。而して女學雜誌が愚任したる社會改良的の慷慨意見は、其間に輝々として輝やき、毎月一回の附錄に於て更に大煥發するとあらんとす。其他一層細密なる躰姿何如あらんかは、第二百四十一號以后の雜誌紙面を見て希くは惠評せよ。

要目

女學雜誌　清水豐子編輯
右毎週各土曜日早朝全國に配布

附錄女學　磯貝雲峯編輯
右毎月第一土曜日女學雜誌附錄

女學雜誌定價元の如し
一冊六錢、郵稅五厘、府內郵稅なし
十冊前金郵稅共五十八錢

附錄女學定價なし無代
但し直得意前金拂の讀者にのみ呈す

改進せる第一號に廣告掲載委賴の諸君は本月廿五日迄に申込あるべし
直注文せんとする諸君は今月中に申込まるゝ方便利なるべし來月初回の大附錄より順次に閲覽するとを得べければ也

女學雜誌、通信女學、女學生、發行所
東京下六番町六番地　**女學雜誌社**
女學書類出版所、同じく取次所

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第二百三十九號　明治二十三年十一月十五日發兌

社説

英雄崇拜

一　忽まち化す

近頃の宴會に臨めるもの嘆じて云はく、何んぞ其様の始めに啞の如く、終りに豆藏の如きやと。客の膳に對ふや默々として語らず、連りに點頭してたゞ〳〵辭退するのみなり、此時に當ては、一語も敢て言ふこと能はざるが如く、如何なる言分を聞くとも唯々甘從せまく欲するの躰あり。卑屈を極めたりと云ふべし。　一旦酒出で、杯一二廻すれば、乍まちにして膝崩れ、聲あら〳〵しくなり、前の處女は忽焉大英雄と化して、勵言壯語天地を一呑にせしかと疑はる、此時に於ては、長者もなく、幼者もなく、先生もなく、弟子もなく、渾て是れ無禮講中同一列なり、醉ふて誇つて云はく、是れ平民主義と。自負此上なきことと云ふべし。　維新以后、日本人民の氣風頓かに變化せしこと、宛がら宴會の前后に似たり。

彼等昔しは、たゞ〳〵お辭義を爲しぬ。不埒なりと叱らるれば首べ既に飛び、無禮なりと怒らるれば位既に無し。啻に百姓素町人が武士に壓制さるゝのみにあらず、武士も亦身の上の武士に壓制せられ、喩へば五重の塔が層々重き荷を戴だくことの如く、最頂天上の一尖塔を除く外は、皆な上より壓迫せられずと云ふものなし。此時に於ては、民の氣風如何にも嚴肅にして、輕卒浮薄の態至つて少なかりき。是れ上に重きを感ずるが故に、心隨つて重やかにてありつる耳。

封建一朝にして破れ、四民一日にして同等となり、此頃は平民主義など云へるものすら流行して、人間に甲乙なしと云ふこと專らの評判となり、天賦の人權に差等なしとて、彼も我も余程氣丈夫になりぬ。車屋も巡査の議論に服せず、本屋も文部大臣を訴ふるに至る。頭痛乍まち去りて心氣爽快となり、われ知らず雀躍して愉快々々と絶叫するものゝ如く、今の日本人民は、重荷を卸せしによつて非常に跳ね廻る者となりぬ。或人は之を見て自由の現象なりと言へど、又或人は之を我儘の初めとなし、國家亂離の兆、既に熟すと嘆げく。

維新以前の世態を想者は、誰か同胞の卑屈にてありけることを歎ぜざる者あらん。翻つて今日の民情を見者其自由幾等層の上にあるかを知ず、安んぞ祝せざることあるべき。然れども、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

今の民情は亦余りに我儘となり、万人万の心ありて、人々互ひに一和せず、我も〳〵英雄を氣取りて相下ることなし。政黨は之が爲めに分裂して纏まるべき見込なく、事業は塞の河原の石を積む如く、半途にて又も〳〵打こはさる。斯ては四千万の人四千万の人心に分れて國家大睦すべき日なし。馬は御せずんば敎ゆ可らず、猿は鞭せずんば躍らず、今の日本人は更に多少の壓制を與へずんば人物となりがたしと云ふ。則はち之に余り多くの自由を與ふることを不可とし、幾分か暫時の昔しに反りて、多少之を束縛すべしと云ふ者あり。

一の論者は云く、日本人民は余り卑屈にして人に隷服すゝとに過ぐ、英雄を崇拜して神の如くに思ひ、獨立自强して大に發達するの氣象に乏しと。又一の論者は云く、左りとて、之に自由を與ふれば、切りに慢心し、乍まち英雄を氣取りて銘々勝手放題の事を爲し、徒らに猿智慧を奮つて小利口になり、ワンパク小僧が親の手に合わぬが如く、遂には國益の邪魔を爲すとあり、今に於て豫じめ其計を爲さゞる可らずと。

此に於てか、國家主義個人主義など云へる爭ひも出て來、又自由黨と保守黨との喧嘩も起ることなり。吾人は、日本人を目して以て英雄崇拜の民なりとせず、故に彼等が英雄を崇拜せざることを患ひとす。其いよ〳〵多く自由を得ると共に、益々深く英雄を崇拜せんことを望むもの也。

二　謙遜自負

人は謙遜と自負との兩徳を具備することを要す。兩つのもの兼ね備はらずんば遂に人性を完うすること能はず。所謂る謙遜とは減り下るの謂にあらず、英語稱する所ろのアムブルチッスに適ふ。抑そも「減り下る」とは、能ある鷹が爪を隱し、學問ある人が才を沒するの類を云ふ。即はち一種の欺むきに過ぎざる也。自から信じて爲し得べしと思ふ、而して人に向つて爲し能はずと云ふ、是れ「減り下る」とあり。確かに信じて十分ありと思ふ、則はち辛ふじて其二三を示す、余は埋藏して現はさず、是れ「減り下る」となり。減り下るとは一種の僞はりにして、僞善の徳に過ぎず。高尚なる道徳より看下して敢て賞むべきものにあらざる也。抑そも、吾人が言ふ所ろの謙遜とは、自ら僞りて減り下るに非ず、眞に賤劣を感じて自から謙退するの謂なり。則はち衷心實に不足を覺り、身の賤きことを深く覺悟し、目前、至高至聖至大なるものを見て、轉たゝ己れの小く且つ劣れることを懺悔するもの、即はち是れ也。ポウロ云はく、余は日々前にあるものを追ひ求むと。孔子曰く、

丘の周公を夢みざること久しと。仰いで高きを見、伏して自己の劣れることを思ふの時、則はち、人性自然に肅退して自から眞理を崇拜するの心地す。是れ眞正の謙遜あり。

能く人に服するものは、亦能く人を服す。如此く、能く長者に拜するものは、亦能く劣者をして拜せしむ。此を以て、自己の德足らざることを思ひ、篤く道を信じ、深く先輩に師事するの人は、獨立の心極めて熾んにして容易く人に屈服することなし。たゞ眞に德の優れるものに服す、故に權威暴力に向つて服することなし。左れば、謙遜の念極めて深きものは、自負の心反つて猛烈なり。彼の暴りに大言を放ち、驕慢にして嘗て何人にも師事せざる所ろのものは、內心實は甚はだ薄弱にして、自から信ずる所至つて詭し。聖人は常に天を敬す、故に能く自信して甚はだ強きことを得。篤學の士は、常に聖人に謙す、故に能く世上に屹立することを得。或人云はく、釋迦を踏にじり、孔子を御し、基督を罵倒するほどの氣力あくんば、遂に大豪傑たること能はずと。然れども吾人は如此き狂漢が遂に何の德をも得ざることを信じ、太たく悲しむ。聖人を崇拜するものにあらずば遂に聖人たること能はず。聖人を罵るものは聖德を罵るものなり聖德を罵りて而して聖人たらんことを欲するは、日に背きて明るきに步まんことを希ふに均し。左れば、眞に、謙遜するものにして、始めて自ら負むことを得、自から負むこと篤きものに非ずんば、遂に謙遜の念なし。謙遜と自負とは、人、德に進むに於て、欠く可らざるの二要德也。

三　英雄

英雄とは、俊れものゝ謂也、凡俗未だ美を發見せざる時、既に早く之を直覺して天下に叫び歌ふものは、詩歌の英雄なり。万人未だ治亂を看破せざる時、既に早く之を洞察し、或は靑天に霹靂鳴動し、もしくは霹靂の裏に赫々の光を漏すものは治亂の英雄なり。億兆悉とく耐ることを知ざるの時、洋々として能く耐へ、未だ道あらざるに道を啓き、未だ來らざるに卒先導するものは、事業の英雄あり。預言者は、未來を先見し、哲學者は未明を明察ず、共に是世上の俊人なり。左れば、英雄とは、未だ明らかならざるの眞理を發輝し、未だ來らざるの事業を開發し、未だ耐ざるの困苦を易々にし、以て凡俗をして、隱れたるの光明に接近せしむる所の大道也。而して此道よ生ちあり、以て能く人目の前よ活動す。此に於てか、凡俗いよ〱光明よ感觸し、隱微の眞德を活けるが如くに確認確識す。左れば、英雄の尊とむべきは、其の眞理を包合して之に生ち

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を附し、活然動作して、天の妙光を明々示するの所ろにあり。英雄を尊とむものは、英雄彼自身を崇むるにあらず。彼ゝ存する所ろの眞理を崇むる也。月の光によりて日の光を知る。英雄の高處聖處大所を見て則はち眞理の高聖大なる所以を崇拜する也。

四　崇　拜

謙遜の德積もり來れば崇拜となる。人は万物の靈なりとて誇ると淺からず。左れど天地の巨大なるに鑑んがみ、深く省りみて自己の眇乎たるとを察せよ。而して涯りなきの空間を想ひ、永遠の時を想ひ、宇宙間の妙工を想ひ、顧りみて自己の生命かげろふの夕を知らざるが如きに感ぜよ。夜の燦爛たる星は天の榮光を漏し、わが良心は儼然として正義公明を認識す。天の星の消す可らざるが如く、良心の湮沒するとなし。而して良心は我を促がして天地の聖なるもの高きもの大ひなるものに贊美せしむ。吾等、こゝに至り崇拜の念潮の湧くが如く、嵐の吹き起るが如く、禁ぜんとして能わず。粛然正坐して、祈り且つ歌はずんばあらず。人は永遠に崇拜者たる也。然りと雖ども、生命なきものを崇拜するは、蒙昧の蠻人すら尙ほ爲すと能わす。彼等或は風に拜し、或は樹木に拜す。左れど彼等は死せる風と樹木とに拜するにあらずして、其の生ける精に拜するなり。もし之ゝ精あらずと云はゝ彼等も怫然として之を崇むるとを爲じ。

吾人天を見て天の上帝を崇拜す。基督を見て其神德の限りなきに崇拜す。孔子以下もろ／＼の聖人を見て、其德の亦た神より來れる者至つて多きとに感じ、均しく亦之を崇拜するの念なくんばあらず。英雄を崇拜するは、即はち神を崇拜するが故也。神云く、われの外何ものをも拜すると勿れと。吾人は能く此の命を守りて、而て尙ほ英雄を崇拜するとを得る也。

五　英　雄　崇　拜

左れば、眞誠の英雄崇拜は、眞誠の英雄を崇拜せずんばある可らず。眞誠の英雄とは即はち神に似る所ろのもの也。彼の權謀を以て德とし、欺詐を以て計となすものは、安くんぞ英雄ならんや。彼等は小徑に依るにあらずんば歩みがたしと云ふもの也。君子行く所ろに大道あり、望む者の爲に途開かる巨山橫わると雖も信ずる者の爲に遷らずと云となし。彼のポリシーにあらずんば事を爲し難と云ひ、正歩直行するに由て艱苦多しと云ふ者は、未だ英雄の天職を知らざる也。英雄は艱苦を經過して、万人の爲に道を啓き、狹門を入りて大道を直

進し、以て万世の路標を置ゆべきもの也。左れば眞の英雄には必らずや僞わりなし、必らずや困苦あり、必らずや早世難死す、必らずや失敗絶望するとなし。一日濶歩して一日にして死するは、既に大道の行路を試みて一日の進歩を爲しつる也。萬民之が爲めに一日の級等を進化す。

英雄は、神に似、眞理に合し、万世の師表たることを得。左れば、神を尊とむ者、眞理を重んずる者、立徳の念熾んなる者は、常に英雄を崇拜す。英雄崇拜の念なき者は、多くは懐疑者也、多くは輕薄也、多くは不徳なり。古賢を罵りて塵の下に蹈むと云ふ者は、身つねに塵中にあり。

六　東洋の佛蘭西人

フロイツサルトも、ボルテーアも、ミラボウも、共に英民の沈鬱にして重々しきを冷笑す。而して英人は常に神を崇拜して輕動するとなし、其の輕動せずして他の冷笑を蒙むる所以のものは則はち英人が万國民に卓越するの所以也。テイン曰く、佛人に好評判の英雄は、權謀家、輕薄者、冷腸才子なりと。彼等はナポレヲンに向つて狂奔し、ブーランゼーに向つて狂奔す、而して其の狂奔する所以を問へば、其の華美にして、輕快なるが故にありと答ふ。あゝ、東洋亦たかゝる一種の國風なきにしもあらず。

論者云く、淡泊なれ、凝る勿れ、愛憍好くあれ、温和しくあれと。抑そも富士山を高しとし、琵琶湖を大ひなりとし、北海を暴しとし、冬風を寒しとし、櫻の朝日に香ふを以て理想とし、肉を食わざるを以て神聖とし、上帝を敬まわざるを以て、國風の美なるものとす。如此き邦土に、何の日か眞個の大英雄出でんや。大英雄出でず、亦何の日か眞個の英雄崇拜あらんや。眞個の英雄崇拜なし、亦又何の日か、謹嚴にして剛直、温厚にして猛烈、よく天を敬して地に獨立し、長上に禮拜して、人權を尊重するの、強硬人士あらんや。我國に英雄崇拜なきとを患ふ、英雄なきとを患ふ、英雄を慕ひ思ふの觀念全く誤まり居るとを慨歎す。

夫れ此の國風を一變すると必要にあらざる乎。人は云く國粹を保て、國風を維持せよと。吾人は如此き國風を以て精美なりと信ずると能わず、寧しろ悉とく打破して民情を一新せんとを祈る。民心の更に敬虔にして更に嚴肅に、更に重々しくして更に沈鬱ならんとを祈る。烈寒の寒きが如く、熱暑の暑きが如く、事々に酷烈ならんとを祈る。而して如此き民情一新の大改革は只だ女學を伸張するに根づく者也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雜録

當今女學生の覺悟如何

清水豐子

當今我國の女學生幾万、而して其中將來の改革者を以て自ら任じ、他日の先導者を以て、自ら期するもの幾人かある。予は必しも一般の女生に、皆悉く改革者たれ、先導者たれよとは強ひず。然れ共之に改革者たり、先導者たるの、覺悟ありやと問ふ所以のものは、蓋し今日の日本に於て此覺悟の、最とも、必要なることを認むればなり。思ふに諸孃は、其學問の上に、又其職業の上に、定めて種々の希望を有せらるゝことならむ。左れど成業の後、速に良好なる良人を得て、之れと共に、快樂ある室家を造らむといふこと、亦是諸孃一統の希望なるべし。諸孃の望や洵に宜し、人の本性當さに然かあるべきの事なり。然れ共諸孃よ、此良好なる良人は容易に得べきのもの乎、又快樂ある室家は容易に造り得べきもの乎、多くの望みと喜びに充されて、花々敷世の中に乘出さんとする諸孃を、眞に清き愛と實に潔き心とを以て、歡迎し、能く諸孃を滿足せしめ得べき男子、今何處にかある、諸孃が學校に於て學び脳裏に於て畫きつゝある家政の採り方育兒法なんどを賞美し喜んで之れを納れ之れを行はしむべき、改進主義の舅姑今何處にかある。思ふて茲に至れば、諸孃は是非共、先導者たり、改革者たるの覺悟を有せざる可らず。又自己の意思に適したる良人、改良の望ある家族に非るよりは、決して歸がじとの決心なかる可らず。而して諸孃が是等の目的を達せんには、實に幾多の苦難と、幾多の年月とを、要することあるべし。然るに無邪氣無經驗なる諸孃は、夫等の邊にまで思ひ及せしことなく、良人が細君に接するの狀は、彼外國の教師達が、其夫人を扱ふの親切の如けん、其良人たるもの、家族が、自己を遇するの躰は、學校に於る諸友人が、自己に接するが如く隔てなく睦み合ふ事ならむと信じ、而して又一に結婚を多望多幸なる者、愉快平和なる者とのみ思惟して、何の掛念する所もなく、何の戒心する所もなく、容易に之を行はんとす。喩へばイーブが歌うたひて、蛇蟠るの地に、知らず行掛るに左も似たり。予は斯の如き形狀を見毎に、最と眞なる心より、切に之を氣遣はしく思ふ也。一匹の羊を驅て之を虎狼の群、狐狸の街に入るゝが如し。彼餌とならずんば、羊たるの柔性を失に至る、何にすとも好しきことには非るなり。

御身等は世の中の無情冷淡てふことは、絶て味ひ玉ひたる事在

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

まじ。或は學校の取締若しくは幹事達が、懇篤なる意思に出でゝ、外出を禁じ、過食を戒めたる位の事を、無情とも冷淡とも、誤想したる程の事ならむ。又世の中の困難てふとは、試驗の文章が、思ふように書けざりしとか、或は病に學窓に臥して、母の如く看護し呉るゝものなかりしとかいふとの外には、感じたる事もなけむ。然るに一朝校舍を辭して、他家に嫁ぐと仝時に、慣習感情全く異なれる人々と雜居同住し、一擧手一投足、悉く彼等の爲に睥睨せられ、一々試みに遇ふが如き心地す。纔に依て以て立たんとする所の良人は、絕て仝情仝感の念を有し呉れず、却て間々其愁を重ねしむる事あり。斯くて時日を經るに隨ひ、始めは姑息の愛にもせよ、兎に角自己を慰め呉れたるともある良人は、漸次に花に、月に、浮れ歩行きて、家事は一切顧みず、舅姑は之を以て、嫁の取扱ひ方悪しき故として、我子を戒めず、却て嫁を罵る。堪へ兼て一言以て諫むるとあれば、ダカラ女學生の妻は嫌ひダといふ。何故かと問へば、理屈をいふからといふ。いやとよ理屈にあらずといひかくれば、夫が即ち理屈なりといふ。口惜しと、思ふとも、到底威力の行はるゝ所に、眞理は容れられまじと口を緘してあきらむれば、罪を謝せよといふ。何の罪何れにかあるとは思ふも、姑らく圓滑に治めんとて、心にもなき謝辭を呈し、潜に心脾に涙を滴らすともあらむ。而して責ても思ひ晴らしにとて、之れを實家に訴ふれば如何。實家の母と姉とは、自己の境遇と祖母の經歷とを擧げて、汝の如きは、まだしも幸福なりといふならむ。あゝ何の幸福何の勝運ならむ、不幸悲慘果して婦人の天命かはと、思ふも甲斐なし。斯の如く、四面皆楚歌の聲を聞き、而して一も自己を慰むるものなき時、在學中曾て理想せし良人、豫期せし團欒の樂の、生憎に腦裡を去らで、悲慘の境遇に反映し、轉た悲愁を添へなば如何。

斯の如きもの、比々皆然り。女學生として結婚したるもの、多少此苦境を、經歷せざるはなし。而して生中、高尚なる理想と善美なる、志望とを抱くを以て、昔時の婦人よりは、其困難を感ずると一層切なり。故に忍耐強きもの、思慮あるものは、辛ふじて是等の艱苦を忍び、幾多の年月と、勞力とを費して、徐々に其良人を感化し、舅姑を融和し得るとあるも、氣短きもの、弱きものは、自ら仆るゝに非ざれば、中途にして全く彼に仝化し去られ、高尚なる希望は全く消へ失せて、一に習慣の奴隷となり、一個の器械として其身を終らん耳。斯の如

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

き者は豈女學生の本旨にして、將又文明教育の精神ならんや。予が今いふ所のものは、實に一二の手近き事情に過ぎず、然れ共既に女學生の細君たりしものをして、轗軻の憾を、抱かしむるの、一原因たるとを認めなば、此外に猶世事の紛雜なる、一家々々の事情の千差万別なる、人々個々の意思の全く相異あれる、其隨て生ずる所の事情も亦斯の如く容易なる者のみにてはある可らず、殊に又今後の婦人たるものは、單に一身一家の上のみならず、追々には國に對し、又同胞に關し、夫々の責を分擔せねばならぬ事にしあらば、其困難も亦、層一層を加ふるとならむ。

然るに只皮相上の見よりして、一に結婚を快樂なる事と信し、艱難にも當らず、困苦をも嘗めざる身を以て、出校早々婚儀を行はんとし、甚しきは、學窓に在るの間、早く既に相約して、他家に嫁がんとするものあるに至る、そも何等の心ぞ。若し一家の事情父兄の强行より、遁るゝの途あくんば、致し方なき事なるも、其際に於る諸孃の覺悟は、必らずや、世の中の改革者、先導者を以て自ら期すべし、決して／＼嫁入を以て、身の落付き方と心得、無職の青年が、始めて月給にありづきたる時のごとく、ヤレ／＼などいふがごとき、生ぬるき考を以て行くべからず。婚家は實に、樂園には非ず、安息室には非ず、一時は實に失樂園、憂苦室にてあるべきあり。只之れを轉じて、天國とし、不滿足なる良人をば、理想の紳士とまであすとは、一に諸孃の忍耐と奮勵とを要するなり。

近頃予の友二三輩新に結婚せんとするものあり、一に狂の如く、痴のごとく、婚儀をのみ急けり。彼等は決して學生として、充分の業を卒へたるにも非ず、又今后二三年間を學窓に送るべき余裕あきにも非ず、然るに何等の覺悟をも有せずして、漫りに此困難なる境遇に臨まんとせり。予は其希望の誤れるとを諭し、結婚の早きに過るを諫めたるに、彼の友は曰く、妹は病身なれば、此上螢雪の勞には堪へず、故に速に身の納まり方を計るなりと。予は之れを聞きて大に驚きぬ、學びの庭に遊び得ざる程のもの、爭でか結婚後の苦艱に堪え得らるべき、況んや自ら病身なりといふに、母妻たるの責をやと。去れ共彼れは遂に聞かず、思ふに只理想上の空頼めに依り、或ひは一二の特例眼を眩ますによりて、結婚を平和安逸なるものと誤想せし故ならむか。依て思ふに世間幾多の女學世間、斯の如き思想を有するの人極めて少なかるまじきぞ。玆に於てか此の一篇を記し以て世上の女學生諸孃に告ぐ。諸孃

の前途や實に遼遠、而して日本今日の狀態たる實に困難、家裡に於ても、夫婦間に於ても、改むべきもの、變ふべきもの一二にして止まらず。況んや二千万姉妹と二千万兄弟との間に於る關係をや。而して之れを改め之れを實行するの責に當るべきもの、女學生諸孃を措きて夫れ誰ぞや。予が諸孃に、其覺悟如何を問ふものは、豈待つ所なくして然らんや。幸に重く自ら任じ深く自ら信ずる所あらんことを。

田邊次郎一君小傳を見て

安東太郎

水底にかげはとゞめて秋の夜の
大空たかくすめる月かな

學びの窓に古郷を思ひて

鈴木げん子

其一

寂然として人語なく庭にあさる小雀の聲も淋敷枯殘る千種の花哀れにも暮て行秋の筐と匂ふあり夜前月を宿して懷舊の涙を呼ひし楊柳は吹ともなき風を受けて朝淸めせし籬の彼方に枯葉を散らし恍として迷ひ飛ふ黃白の胡蝶の羽風何となく心ありげありまどの戸に近く居寄りてつく〴〵と思ひ返せば幼かりし時母の膝に這ひ上り惠の露の初めある乳房こひしとすがりし頃はいかに無邪氣ある我心なりしか今の罪にけがれし心に思ひやる事も難し我父は義を重んじ道を守るに切なり我母は正しき愛と深き婦德とを備へたりとて鄕人に知られ玉ふ彼等は妾わを定めて己等の如く全き人たらしめんとこそ敎育し玉ひつれ否藍より靑からしめんとこそつとめ玉ひつれ然るに彼等か豫望は殆んど空しきに歸し我良心は暗くして光なく善を作さんと務むるとき却て惡を犯すの罪に打勝るゝ事多し然れども常に希ふて止ざるものは暇あるごとに貧しき人の爲め又哀なる孤子の爲めに及ふ限りの力を盡さん事をと思ふにあり嗚呼我良心よ光れ輝け汝か光りは以て諸の罪を摘除し去るに足まで以て我をして自然ならしめよ幼子の如くならしめよ父母か理想せし處の如くあらしめよ。

其二

肅殺悽愴を含むといふ暮秋の半夜齒痛堪へ難きに起きて床上に孤坐し仰き見れども慈愛なる母上の共に起きて按摩し給ひける一ケ月前の幸福は享難し且伏し且起き輾々床をまろびて時を移せど夜は長くして未た猶曉ならず疲れ果て僅に枕に着て眠るを得たり我魂や何れに去らんとすらん肉體の苦みを遠

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

く百里の外に携へて安眠する阿母か夢に入るとを休めよ。

其三

二ヶ月の夏休は茫として夢の如く亦幻の如しと雖とも退いて靜かに考ふれば其間にありし事柄の其折には何事とも思はざりし事までも只管にこひしくもなつかしくも事に付け物にふれて忍ひ出らるゝ事例へば岩間の清水潺々として絶ず流れ出るか如し或日愛する弟がわが秘藏なる珍しきものを見せんと頻りに手を採り導くまゝに隨ひ行きしが庭の木影に小き籃ある所に到り中を指して誇顔なれは亦例の小鳥をや捕へ置たりけん面白からぬ事哉と打見るに思ひきや純白無垢の小鼠二つ居たり目は黒く圓く光り耳の邊湖紅なる樣得も謂はれす奇麗なるに初は深く打驚き次には誠に愛らしき者哉と思ひしがやがて弟か投與ゆる菓物の皮なとを快く食して余念なきを熟視せし時萬感胸に滿ち覺えす嗟歎せり然れど弟か喜ひを妨けん事を恐れて室に歸りて後つく〴〵思ひ回せは彼は實に惡むべき一小動物なるを其容姿の愛々しく其色の奇麗なるか爲めに却て人に愛玩せらるゝ家を傷け器具を害ふにも拘らず今は坐食して獨樂す東寺の門に爲兼の入道か不具の乞食を見て愛らしと思ひしも同じく之れ奇を好む人情の止を得さる處のみ今や義人の血涙をふるふ廢娼論の世に行れ難きが如く見ゆるも或は此理に基ける者かよしなき事を樂む弟哉とは思しか左して害あるにも非ざれば分て口にも出さゞりき今より思へば亦一つの故郷の追慕として殘りぬ。

肺勞

仁田桂次郎

多年肺勞を患ひ、經驗積みて精く其理を發明し、書を著わして之を世人に數へ、問を受けて信切に之に答へらるゝ、仁田君より左の寄書あり。

肺勞は先づ感冒等の爲めに氣管支カタルを起こし尋で慢性の肺炎となり結核を續發するに因る者あれども初より肺に結核を生ずる者も亦少しとせず肺に結核を生ずべき者は生來虛弱にして父母より惡液質の遺傳を受くるか若しくは幼時乳養不充分なりしならん縱ひ乳養不充分ならざるも病身又は惡液質なる母又は乳母の乳を以て養へば害あり病牛の乳も亦然り成長後も運動を欠き又は粗食のみし又は食量不足し又は過勞し又は疾病に罹れば衰弱して肺勞の素因を成さん不潔の空氣、酒、煙草、熱氣、寒氣等は肺を刺激して炎症を起し結核を媒すべし然れども若し身躰にして强壯ならば斯かる誘因に遭ふと雖も能く之に耐へん故に肺勞預防には先づ身躰を强壯にする

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

ことなり則ち小兒には生母の乳を與へ其の不足するときは乳母の良乳を與ふべし生長の後も牛乳牛肉の如き滋養物を食し且つ勉めて運動し凡て攝生に注意すべし暑中は身躰を衰弱せしむるか故に秋冷の候に至り冷氣に刺激されて肺炎を發することあり故に暑氣を避くべし衣服厚に過ぐれば皮膚薄弱となる故にフラチルの膚着と股引を用るは善けれども餘り衣服を厚ふすべからず熱き飲食は肺へ充血を起すべければ不可なり且つ肺病者の痰に近接すべからず肺病者は必ず其の痰をガラスの器に納れ蓋を爲し一日數回之を清潔に洗ふべし決して痰を貯ふべからず痰の中へ石炭酸液を注げば更に消毒の効あり肺勞は寒國に無く熱國に少く暖温の國に多し十五六歳より三十五六歳までを最も之に罹り易き時とす男子は之に罹ると女子より多し一旦之に罹れば大抵不治、經過は半年より二年とすれども時としては數十年に及ぶ其の初期に於て治療の宜しきを得れば稀れに全治することあり其の他は只死期を延ばすなるのみ療方種々あり英國の名醫スミス氏は肺勞初期の治療を詳論し運動滋養等を勸め特に多量の滋養物を命ず英國肺勞專門家ウイリヤムス氏は盛に肝油を稱揚し且つ傍ら鉄、亞燐酸鹽、礦産類を良しとす米國肺勞特長醫フリント氏は多量のアルコールを賞賛す或は牛乳肝油麥芽を可とする者あり余が自驗する所に由れば多量のアルコールの如きは熱を激して害ありとす肝油は胃腸に耐ふるを度として用ゆべし鉄飴は多血强壯の効著し余目下其の製法を研究す近々精製の上は之を發賣に付せん其他發熱を防ぎ下痢を避け寒氣に注意し衣服を適宜にし熱浴を禁じ時々冷水を以て頭と胸を冷して充血を散ずべし牛乳は下痢せぬを度とし一日三合までを用ゆべし牛肉魚類パン米飯等は隨意適宜に用ゆべし詳細の治方は病の輕重合併症の有無等に因り異るべければ此に畧言し難し倘ほ追て閑暇の時余が自驗の説を寄贈せん對面質問を欲する方は麻布區櫻田町七十番の自宅を訪はれよ。

秋夜感懷（下）

雲峯子

最愛の勝地

六々峯下山麓迂曲する所一溪谷あり、古松大樹鬱茂して日光倘冷かなり、羊腸たる坂路青苔濃かに、亭々たる樹上山風靜かなり、淸泉岩間より迸り、止つて一池水となる、水光恰かも明鏡を磨するに似たり、誠に塵界を脱するの所、止る者をして心志を洗はるゝ心地あらしむ、池畔に茅店あり、交友數名を此に會し、或は赤心を吐露して將來を談じ、或は共に袖

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

を絞りて相互の不遇を慰めけり、其情一度結ぶ所、遂に別るゝなけん、愛は永久に墮るなしとは人の格言に非ず、深夜殘燈に對して世路の峥嵘を思へば轉た舊友なつかしき、舊友の友交を顧る毎に未だ彼勝地を思はずんばあらず、嗚呼最愛の勝地を去る事遠し、されど余は其光景の腦裏に浮ぶ毎に樂し、半世の嶮路之が爲めに難苦を輕くすることといくそばくぞ。

踏みなれし小徑

終日の業終り、斜陽已に赤塔々西に傾く時、知友相携へて門を出で、東して鴨河堤上古松並たつ下に道を取り、柴橋を渡る時川上遠く眺むれば暮色茫々の内に見えぬ、寒村僻落に立つ烟、天地寂々暮れ渡る時聞えぬ、河岸の竹村に塒を求むる夕烏の聲、それより糺の森を過ぎ、徐歩して校舎に歸れば燈光點々各窓に見えぬ、これは是日々行歩せし小徑、亦忘れかたし。

思ひめぐらせば、洛陽の山色水容歷然として眼前にあるが如し、余は余の感想を記するの功遂に何れの所にあるやを知らず、されど余は信ず、懷舊の情眞に禁ずる能はずして古來幾多の詩人歌客をして思はず吟詠せしめたる事を、余豈に詩人ならんや、歌客ならんや、されど一片の情感日々宵々腦底に現はれて禁ずる能はざるものあるを如何せん、之を外に出だすなくんば將に魂銷て、腸斷たんとす、思ふに詩人歌客の過去を想起して吟詠する所以のもの實に好奇の心之を爲すに非るべし、必ず情緒の止る能はさるものあるによるならん、人若し之を非とせば乞ふ詩人歌客の著作に問へ。

眼中明かに殘る偉人の姿

山水の風光眞に愛すべし、されど偉人英士は更に愛すべし、余が洛陽の地を忘れざるもとより風光の美なるによる、されど尙一層重大の原因ありて洛陽の地を慕はしむ、是即ち余が鴨河の西風淸水明の間に認め得し偉人の姿是なり、或は其偉性を知らさる人もあらん、或は其英資を疑ふ者もあらん、味方多ければ從つて敵多し、往古小亞細亞に一偉人あり、萬能の力を有し、萬物を治めたり、通常の人物に非ざる知るべきのみ、而して時人反逆の罪となして遂に刑上一滴の冷露と消えしめぬ、誰か今日に至つて其罪なきを知らざる者ぞ、余は今洛陽の偉人を以て之に比するものに非ず、只敵の多少を論ぜず、余は其偉人なるを信じて動かざるを證明するのみ、余は此偉人に接して感得せし所もとより多かりき、之を精細に述べんは他日に讓る。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

舊地古趾

忝くも古へより歴代帝王の都と定めさせ給ひし舊皇居より、神社佛閣に至る迄宏壯美麗を極む、其今日に至つて衰殘廢滅の跡蔽ふべからざるもの多しと雖も、舊地古跡と思へば見る毎に昔床しく覺えけり、之亦多少の感を與ふ、是亦此に精しく記さず。

夜沈々、秋雨暗く半夜の鐘聲遠く聞る時洋燈の下に記す。

諺の三病

肥前　不稀雄

不稀雄常に怪む、世に大人君子と尊崇せられ德風千載を吹鼓するもの乃世の所謂る才智双絕の士にあらずして凡庸暗愚なるが如き者にあり。仲尼の衣鉢は言語を許されたる子貢、文學の子夏などにあらずして、質魯の曾參に傳り。豊公の祀は二世を出でず、東照公の裔は三百年を廟食せるは如何なる理由ありて然るやと。此頃武將感狀記に、諺の三病を論せるを見るに、曰く「觀世左近は謠に名を得たるものなり後剃髮して安林と號す謠に三病あり聲のよきと、覺のよきと、拍子のきゝたると此三事備れる者多分謠に不成して止と人に敎へぬ、是何の道にもあるべき事なり、器用を賴む者は自滿りとす、自滿りとする者は工夫を不積、工夫を不積者は諸藝の奥意を曉り難し」と是實に有理の論不稀雄其平生の惑を消し轉悟入する處ありぬ、若し能く之を讀むものあらは愚かなりとて自棄するにも及ばざるべく、才發なりとて賴むべきにもあらず、幸福と名譽とは正に誠實篤厚の人を待つものなるを知らん。

涙滴々

年若くして古里を出で頼よる所ろなくして學問せんと心掛る或る女學生の文の初めに、

凡そ世の中に憂き事悲しき事澤なれど生計を失なひ馴れぬ土地に彷徨よふほど苦しく悲しきとはなかるべしと我身は思ひ侍るなり實に百聞は一見に若かず何事も學問上にて學びしのみにて實地に之を經驗せざれば其眞理を味はふと能わずとは兼て人も言ひ我々もまた口眞似せし處ろなれど我身今日に至るまで左して境遇に變轉なく生年なほ淺ければ只學舍の中にて日課を學び人に後れを取らざるやう試驗に落第せざるやうとの心配のみにて世の中の事情に少しも馴れねば何事も識る道なし左れど生意氣にも新聞雜誌又は小說などの端を少しくか

ぢり讀み物も知らぬ癖に世態に能く通ぜしやうに思ひ憂苦艱難の辛味を能く理解し世の事情丸呑にせしと思ひしところ實に淺ましく恥かしき限りなれ今や誠に悲しき境遇に陷りてれ迄で想像せし憂苦艱難の眞味を甞め始めて世の辛酸と云ふとを知り中々に其の想像せし如く容易きものならぬとを覺りたり今ぞ百聞一見に若かず何事も經驗を履まずば其理を究むると能はずとの語を能く知りぬ。はじめ我身故里にあり雙親同胞の膝下にありし日……………。

心せよ、今日の女學生

碓氷山人

夕日西天に殘りつ、暮色漸く近づきぬ、打むれて塒に急ぐ群烏、中空を過ぎ、校舍の鐘聲響きぬるは常に生徒に退散の時を報ぜしなるべし。とある校内より伍々三々、打つれて家路に向ふ女學生、何れやむごとなき際の令嬢と見えぬ。折々顔見合はせて行く樣親しく打語らふにやあらん。半璇門外水禽晩風に打羽ぶくころ二人相携へて行くは正しく先きに校門を出てし女學生なるべし、談漸く佳境に入りけるにや、行歩自ら徐々たり、勢ひ強く行く腕車數臺過くれば即ち堤上音絶え、語聲纔は聽えぬ。年長けたる一女生口を開き今日は女學漸く衰へんとす、女學生の減少せる御身の親しく目擊する所ならずや、必竟するに今日ある誠に女子が學問するの功用なきが爲めなり、今日にして方向を轉ぜずんば將來の獨立策は果して何處に求むべきや、斷然決するに如かずと」他の一女生年少しく劣る者暫らく默考してありけるが、やがて亦云ひける樣御身の云ふ所誠に理に當る、妾今夜兩親に説きて廢學の事を決せん、兩親恐くは異見あるまじ。兩々相携へて彼の○○學校に行くまた快ならずや、且つ究屈なる校則に箝束せらるゝなく遊ばんと欲すれば則ち遊び、語らんと欲すれば則ち語るを得べし、積年の愁眉漸く快く晴れん、豈亦樂しからずや」と時に一女生の門に近づく。門外に佇みて尙語らふ事數刻談漸く熟せしもの、如く握手の禮を以て立別れ、一人は門内に入り、一人は家路を尙急ぎぬ。

是余の友某が過る日學校より歸路に於て聞ける所にして余が友人と遇へる時談偶ま之に及びしものなり。未だ女學の隆盛を來さずして先づ衰ふ、豈國家の爲めに賀すべき所ならと云はんや。余は前號の紙上に於て三美郷人の寄稿にかゝる一文を讀み轉た感慨に堪ざるものあり、今亦友人の傳ふる所を聞く、豈多少の云ふ所なくして可ならんや。三美郷人が某國會

議員の言を述べ、或婦人の評せられしを附記する所、正に郷人は後者に同意を表せらるゝものと見ゆ。余亦然り。然れども苟も國會議員たる者にして尚彼の言を爲せしを思へば、今日世人が女子教育に對する意見の如何を想知するを得、且亦始めに陳述せる女學生の談話を聞て女學生氣風の幾分を知る、斯に於て余は大聲して告ぐ、心せよ今日の女學生。

縱今日迄の女學生が實際に學問の功用を世に示さゞりしにもせよ、余は必らず女子教育の今日急にせざる可からざるを勸告するものなり、世上許多の女學生、悉く學問の用を直ちに世に顯はす能はざるべし、されど余は今日の女學生中に必らず爲すあるの人存するを認む、若勉むるあれば必らず將來に女學の功用を世に知らしむ事を得ん、女子の眞價を顯はす亦此時にあるべし。

余が常に望む所の女權擴張策は大言放語して女權の伸張を唱ふるに非ず、靜々默々只爲すべきを爲し、勉むべきを勉めて女子の眞價を知らしむるにあり、人較もすれば歐米諸國女權の伸張せる所以を偶然に歸す、何ぞ知らん、中古以來幾多の女傑輩出して或は學業に於て、或は實業に於て、著るしき功蹟を建て男子をして後へに瞠若たらしめしに因由せし事を、近世に至り較もすれば歐米諸國に於て頻りに女權擴張を唱道する者出でぬ、されど余は信ず、彼の擴張論者の千言萬語は遂に一小婦の忠實なる一擧手にだも如かざるを。

余嘗て某會に臨席せり、卓上の食器已に徹し、珈琲を喫する頃右側の人にものを問ひぬ、此人は是近頃歐洲より歸朝せる某博士なり、懇々歐米婦人の狀況を話さる、内に一事、余の腦裏に徹せしものあり、博士云ひけらく「今日は歐米諸國に於て貴婦賢女と云ふべき者は已に囂々語聲に顯はして女權擴張を唱道するの不可なるを悟れり、彼等は只内にあつて小心翼々女子の責任を勤むべきを重んず、されば新聞雜誌にして女學に關はる重もなるものは女權の如何を喋々する事なし、紙上の記事多くは是家庭教育等の事のみ、若女子にして眞に女子の責任を盡さば豈空言漫語するの必要あらんや、世人自ら女子を崇敬するに至らん云々」と、余は歐米の事情尚斯くの如くなるを聞て愈女子が愼靜あらん事を希望するものなり、歐米にして尚博士の言の如し、我國の女子大ひに此に注意する事なくして可ならんや。

女學生にして學問を修めたるが爲めに輕躁、浮薄、不從順、生意氣等の惡風に陷るは素より不可なり、されど學問すると同

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

時に御美徳を養ふを得、亦學問の効用をも世に示すを得ば女權の伸張期して待べきのみ、此故に余は徒に女權を擴張するの不得策なるを告げ、亦女學生が從順温容以て學問に勉むべきをすゝむ、蓋し或部分の女子は懦弱薄志遂に世の風潮に靡き易きの憂ある能はず、文旨に叙せる所は即ち其實例のみ、女學雜誌改進の預告を讀みぬ、余は如何に改進するかを知らず、されど余は希望す、愈家庭、育兒等實用に適する事項の増さん事を、思ふに是余の私望に非ず、滿天下の女學に志ざすもの皆斯の如けん。

"There is a point no eye shall see
Yet on it hangs eternity."

木末を知らぬものこそあはれなれ
日のもと國の山吹のはな

神戸より
敏馬の郷にて

○僧侶宣教師の成分

「金言」と云へる雜誌に云く、僧侶宣教師の相當なる成分は、當に左の如くあるべしとぞ。

學力	一三
聖化したる常感（コムモン、センス）	一七
聖淨	三〇
忍耐	五
愛嬌	五
創造力	八
利他心	一二
快味	六
若やぎ	四
合計	一〇〇

きよめぬ庭　其三十

洒落齋主人

禁煙會

千草は千草　くさはあれど
この草うさを　わすれぐさ
花の夕も　月の夜も
酒よりさきに　もてあそぶ

煙草のわが國に傳はりしは、今よりは二百八十五年の昔、慶長十年の頃あり、南蠻國より煙草を得て、長崎に植たる由ものゝ本に見えたり。されど南蠻國より傳りしとあるから、外國にはなほ早くよりありし者ある可し。そも此の名のたばこと云へるは、サントドミンゴに於ける、タバコ(Tabaco)なる州の名より出たる者にて、此の草は、一千四百九十六年今を距ると三百九十四年の昔、始めて發見されたる者なるよし云へど、また或る書には、タバコと云へるは、ハイチーの語にて、之は其土人の用ゐたる、煙管のことありとも云へり。それはさておきつ、其名の何れの國に於きてもいと似寄たるぞをかし。

日本語　たばこ、けふりぐさ、わすれぐさ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

獨語 der Tabak タバク　英語 tobacco トバッコ
佛語 tabac タバク　スパニア語 tabaco タバコ
伊語 tabaco タバッコ

わが國にてたばこと云ふは、恐らくカステラ(此はカステリヤーノ Castellano と云へる、昔時スパニヤ國にありし、金貨幣の名より來りしものか。或はカスアルム Castellum 砦と云へる、羅典語より來りしものかしらず)と云へる、菓子の名の、スパニヤ或はポルトガル語より、入り來りし如く、タバコと云へる語も、スパニヤ語より來りしなる可し。されど外國にて煙草はじめて見出したるは、今より三百九十四年の昔と云へば、わが國に傳はりしは、それよりのち僅に百〇九年をへだてしのちのみ。さるに今は上九重のうちより、下山賤のむれに到るまで、わが國とつくにのへだてなく、烟草くゆらすにいたれり。さればにや、ハワナ、マニラのみかは、薩摩長崎の國分に到るまで、年々に煙とせらるゝ烟草のかず少からず。歐洲の國々にても此の草の余りに人に好まるゝものから、其害なきにやとたづねられ、此烟草のうちには、ニコチン Nicotin $C_{10}H_{14}N_2$ と云へる物合みたり。そはいたく人をいたむるものなりとて、切りに烟草くゆらすことを止めんとするの一組出來り、こゝに組合をたて、名づけて禁烟會と云へりとぞ。或る年の大會なりけり、會の招きによりて、此所に來りしは、名高き科學者なりけるが、會主より一席の演說あし給れと乞入れたるさまなりしが、やがて壇上にのぼりて、說けるやう。

諸君子。今日は本會の總會にて、私も此席末に列するの榮を得たるところ、會長より一席の演說なし呉れよとの賴みをうけたり。余は元來經驗上より、烟草の害をさほどなりとは認めざるの一人なり。尤もニコチンは、ピロガルピンと同じく、心臟鼓動停止神經の未消を麻痺せしめ、消食器系統に於ては、胃及び腸の劇しき收縮を致すにより、强き嘔吐及び下痢を起すべし。且つニコチンは、大量に於ては、全神經中樞、特に呼吸神經中樞の如きものを麻痺せしむるの効を有す。故にニコチンの毒に中りしものは、先づ卒倒し遂て虛脫に依りて斃る可し。人の體重一キロ(二百五十匁)に對して、四分の一乃至二分の一ミリグラム(一匁の一萬六千分の一及至八千分の一)のニコチンを以ては、未だ死を致す如き虛脫を來すことなし。尤も普通少量の中毒症は、暖氣及び嘔吐にして、喫烟を始めかけたるものに於て、屢目擊するところなり。然れども習ひ性となり、此の毒も習慣

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

とあれば、終にはさほどの中毒を起さずして、味よく快よき感覺をいたすものあり。されば烟草は之を少しづゝ用ゆるときは、決して酒ほどの害をいたすものにはあらず。諸君子且つ注意せよ。凡そ乳哺動物のうち、人類と肩を比ぶるものは、猩々(オラン、トン)及び黒猩(トログロヂーテス、ニゲル)等にして、此等は其骨骼、生理的の作用、殆んど人と異なることなし。中には家の如きものを造るもあり、父子夫婦の如きあり、肉を食ひ、酒を飲み、行住坐臥、實に其區別に著し。尤甚しきに到りては、オラン、トンは、なほ人類特有と云へる、言語をさえなすとまでに云へり。然らば人類は、少しも此等の動物と異ある點なきや、と云ふに、僅かに一つあり、そは烟草をのむことゝ之なり。如何なる動物と雖ども、今日迄、烟草をのむものを見出したることなし。烟草をのむの一點のみ、人類の他の動物と異なるところにして、諸君子の云へるごとく、若し人類に此喫烟を禁ぜば、爾後人類と動物との鑑別をなすに、其方法なかる可し。

と云へりとぞ。あなをもしろの博士の言や。

編者云く、之に對する駁論は次號に載すべし。

小説

新天路歴程

第二回　舊險路

湘川漁夫譯

鐵道を距る數町、世渡滑は遙に古風なる建築の家を指し、其古くより旅人の休泊所なることを示せり。是れはバンヤンの書に、通譯師の家と記せる所あり。

久しく彼の古邸を訪はんと望み居りたりト

余はいへば、

彼處は停車場の位置に非ず、主人は鉄道に大反對なり、左もあるべし、鐵道は屋敷の外を過ぎ、上等の旅客迄取り去るなれば。去りながら今も尙門前には小徑ありて、旅人の折に立ち寄る時は、主人は己れの身の如き、古風なる取扱を爲すを常とすト

滑は語れり。

話は未だ終らざるに、車は既に彼の、十字架の前にて、クリスチャンの重荷の、肩より落ちたる場所に來りたれば、世渡滑、成羽井安郎、綾町角宗、黒腹隠平の諸氏、及び剛愎町の紳士等は荷物の安全より生ずる、無量の便益を此を機會と説き出だせしが、余も他の客も、皆之には同意を表せり。余等の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

荷物の中には世に貴き品物あり、中にも分けて價ふるは、好みの慣性あり、是は天城の府中に至るも流行後れに非るべしと、余等固く信ずる所なりき。斯る高貴の品物の、空しく、一時に落ち失せんとは、忍び得べき事に非ず。昔の旅人と、今の偏人とに比し、身の上の幸福を、喜び語りつゝ過ぐる間に、余等は既に難山の麓にあり。此岩山を穿ちて、弓形高く軌道を双べて、新たに作りしトンネルあり、此大搆造にして、崩れ塞がる事なしとせば、其建築者の、意匠と技倆を示すべき、永久の紀念表となりて殘るべし。此便利に附け加へ、又一つの幸福は、其處より出でし土石をもて、謙遜ケ谷に運び移し、大道を築き上げ、其不愉快不健康なる、谷の內に、下り行く、必要をば省けるなり。是れ皆驚くべき改良なりと讃めつゝ。語を續ぎ

此の邊にありときく、美宮殿を訪問ひて旅客の接待に懇ろなる、麗しき小女、節女、敬女、愛女の諸孃に面會せんと思ふは如何にト

余は問へるに、

少女ト滑は笑に堪へかね、噴き出だし、

麗しき少女とよ、皺寄り骨出で、枯れ燥きたる老女なるを、殊に又習舊に泥み、クリスチヤンの訪し以來今に至り、其內の一人として、衣服の模樣をすら、改めぬ程の者なるをト。

告げ語りければ、

去らば面接の要なしト

余も又自ら滿足せり。

謙遜ケ谷の戰に、クリスチヤンに打ち負けたる、不名譽の記臆を避けんとや、其谷口にかゝるや否や、アポリオンは非常の速度にて進行せり。バンヤンの書を參考すれば、此速力の割合にては、物凄まじき死の谷陰も、早間近く、身は忽ち彼の深溝或は泥沼の中に陷らんかと、其有樣を想像に描きつゝ、潜に余が旅伴に尋ねしに、滑は落着きたる樣子して、谷中の難所は、其最惡なる處と雖も、風評大に實に過ぎたり、况して今日の有樣にては、其文明諸國通常の道路と、別に異なる所なしとて固く保證せり。倏ちにして滊車は、一直線に死の谷陰に走せ入れり。余が胸は余が心に乖き、轟き跳りて制し難し。去れど余は亦、工事の企圖の大膽なると、土木師の熟練なるとに至りては、感謝と賞讃を忘るゝ程のものに非らず。特に又余が滿足せし所ろは、霧閉ぢ雲掩ひて、深く日光を遮り、黑白を分かぬ谷中に、

管を敷きて噴き出づるガスを集め、道の兩側に傍ひて、ランプを二重に立て並べ、燈光を取りて、線路を照す工風あり。されば惡臭鼻を撲つ毒ガスを、助けの力となすとは雖も、只だ惜むらくは其光の甚く目を害し、且つ乘客の貌を、異形の狀に變ずる程、模糊として明かならざるのみ。其光をもて日光に比べなば、譬へば世の中に虛僞と眞實の差あるが如し。されども若し讀者をして、余と同じく此暗黑塲にあらしめなば、天上地下其來る所を問はず如何なる類の光なりとも、必らず謝して受くるなるべし走る車は電光の如く、轟く音は反響に和して雷鳴かと怪まれ、左右に連なれる數千の燈火は、旣にして兩側一面の赤色となり、恰も燎火の長城を築き出せるに左も似たり。不幸にして機關車の軌道を外るゝ事ありとせば、（人は言ふ前例のなき事に非ずと）列車は直に底なき坑に陷るなるべし。斯る妄想余が心中を侵し來り、總身震へてわなゝけるが、俄に谷中に鳴り響き、百千の惡鬼、一時に其咽喉を破るが如き絶叫の聲あり、暫らくして聲休み神定まれば、是れ只滊車の停車塲に着するを報ぜし、滊笛の音ありき。

此停車塲の傍に、黑烟卷き揚り、火焔迸り出づる大穴あり。正實なるパンヤンは、想像に富めるより、物の形容稍張大に傾き、余等のいはんより、尙明瞭なる語を用ひ、此穴を名づけて地獄の門と呼べり。去れど友人滑の說明によれば、かゝる門口は、實際存すべき者に非ずして、是れ只半鎔火山の口ありと言へり。鐵道會社は此洞の內に製造所を設けて鐵軌を製造し、又此處より多量の焚燒物を運びて、機關車の用に供せり。此大圓周の噴火口に莅み、遙に底を瞰下せば、幾百千尋の深さをしらざる、暗黑中より、炎々として、立ち騰る長舌の火焰、黑焰を纒ひ、火焔に映じ現れ見ゆる異形の怪物、異樣の人種、何處ともなく傳へ來る歎聲叫聲、坑中に鳴り渡る。言語の如き音響、是等は皆心中に奇異の念を起さしめ、何人と雖も、余等と共に飢ゆるが如く、滑の說明を求むるなるべし。洞內の住民は、其形醜く、其顏は烟に燻りて靑黑く、其眼は赤色にして光を發し、其有樣心中燒け焦れ、立ち上る火焰の二階の窓より、迸り出るが如し。製造所の職工、運送方の人夫、何れも其業に就き、呼吸忙しく働く時、分明に其口と鼻とより黑烟を噴き出だせる狀は、最とも強く余の心を驚かせり。

鐵道の傍には噴火口より火を取りて烟草に移し、烟を燻して空くブラブラと步行する者あり。其惡相不思議にも洞の內の

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

住者に似寄り、且つ惡口雜言の惡習に慣れたり。其故なるか顏の形も、甚く曲りて見えたり。其内には正しく天路旅行の者ありと見受けたれば、中の一人なる生氣怠三といへる懶惰無用の人物を呼び、其職業につき二三の問答をなせり。

余は問へば、

　君は天城に向て出發せし者ならずやト

　左ありト

不行儀に烟草を余が眼に吹きかけ、

余は其市府の惡評をきゝ、其城下なる小山を攀るの勞をも嫌へり。仕事なく、樂みなく、酒なく、烟草なく、日々夜々只聽くものは會堂の音樂のみなりと。斯る場所には、家と衣服とを與へられても、住居せんとは思はぬなりト

何氣なく怠三は答へたり、

　さらば場所もあるべきに、何故に此地を擇んで住へるやト

余は再び問へば、

　さればなりト

怠三は口を開き齒を現はし、

　此地は暖にして余が身に適し、且又許多の舊友あり。歸途に必ず尋ねられよ、先づは樂しく旅行あれト

言ひ捨てけり。

既にして出發の號鐘は、機關車の方より響き來り、此處には新入の者なく、滊車は數名の旅客を後に殘して走せ出だせり。數千の燈火は前の如く線路を照らし、其光鋭くして且つ物凄く、眼は眩みて、爲めに視力を失はんとせり。奇怪にも其が又燈の影より、折々罪惡と慾情の充滿せる顏色をもつて余等を覗詰め、大手を伸ばして車の進行を止めんとする者あり。余は、或は其余が心中の罪惡の反射あるやを疑へり。是れ只想像なり、他に非ず、恥づべき心の迷ひなりける。なれど此暗黒塲中疾走の間は、余は其幻影に責められ苦しめられ、惱まされ、安き心地はあらざりき。漸くにして、天色も微に明け來り、狂へる想像も次第に其力を失ひ、死の谷陰より逃れ出づる、余等を迎ふる大陽の光に、全く、跡を藏すに至れり。尚一里をも過ぎ行かば、恐ろしき此境遇は皆總べて、夢なりけりと、自ら保證するなるべし。

谷の稍盡きんとするに當り、パンヤンの記せるが如く、其傍に洞穴あり。是れ昔し惡逆無道なるポープとパガンの、無殘に旅人を殺戮し、尸を積み骨を累ねし處なりき。今まは一人の大漢入り替りて其中に住み、是も又無殘にて、通行の旅人を

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

促へ、屠り殺して煙と霧と、月影と生芋と鋸屑とに混ぜ、食するを常とせり。此者は獨逸生れにて空想大人と名を呼び最も訝しきは其容貌躰格器量性質等に至りては、自らも言ふ能はず、他も覺ゆる能はざるとの事なりき。滊車は洞の前を走せ通り、余は一目其大漢を見たるが、其形如何にも不恰好にて、只雲と霧との集合躰かと怪まれたり。彼の大漢は頻に余等を呼びたれど、其言語奇巽にして何の意なるを知る能はず、其喜ぶべき事なるか、將恐るべき事あるか悟り得ずして、余等は只一目散に走せ去れり。

批評

(102)。明治女小學躾草　上下二冊合百三十葉定價七十錢　福岡簑子町百三十番地 林發行

松田敏足氏の著にして、たとへばむかし姫鏡と云ひしものゝ類なり。第一章、総論。第二章、幼稚間の衞生。第三章、保育方の注意。第四章、運動の必要。第五章、衣服の衞生。第六章、食物の衞生。第七章、住居の衞生。第八章、智識の活動より、智識初發の施術、女子就藝、婦人の經濟、節儉、用心、定則、經濟の三要語諸般の取扱、德育の惣躰より下婢下僕に對する心得、親族近隣の交際、等を各章に分説し、頭書には、帝に對する務、烈女小傳、女用文章、衣服、染色、絹木綿などの名目、手紙の書方など、又は帳面のつけ方、衣服のぬい方、臺所の心得、しみをとしの方に至る迄て、何くれとなく書集めたり、左して新らしき説と云ふは見當らず、又文章も巧みありと云ふにあらねど、極めて汎ねく網羅したり。關輪氏の姫鏡は開化風あり、此は昔し風にて而も今の事を能くつけ加へたり。

(103)。明治女大學　全一冊大本七十八葉　發行所前に同じ

花房庸夫氏の著にして、貝原翁の女大學に傚ひ、説を開化したるものあり。廿四章に分ち、普通の心得を講ず。

○德育鎭定論　與文社發行

中本の一百四頁にて、囂々たる德育論を鎭定せんと欲す。子供が総を押ゆるがの如く、ぬらくとして脱すると多からんは固よりなり。左れど、森君の愛子とて森君に似たる所ろ多し。暴斷輕定の非りはありと云へど、兎に角、自信のあつき所ろ、讀もて行くに快味なきにあらず。「文部大臣が德育の主義を定めざればとて學校敎員は德育を中止して擱ざる也。…… 大臣の變更ある毎に德育の變更を見ざるを得ざるか、德育は

如此く長官の更迭ある毎に屬官の變更ある如きものに非ず」とは豪快の論なり。「宗敎は文明の進步と共に衰ろふ」、「自然の制裁にて十分なり」などの論、あり觸れたる誤謬論なり。佛敎と神道とは能く仲直りを爲しぬ、耶蘇敎は調和すまじとの論、敎育時論記者が駁擊はありつれど、眞理なり。但し嫉妬の神なるが故に相合せずと云ふに至ては、抱腹の限りと云ふべし。嫉妬の意義今少し研究ありたし。普通心は素より道德の基礎たるべし、儒敎も佛敎も皆な普通心の一部分に訴へたるものにして、基督敎は其の尤も高き所に應じたるものなる耳。普通心より發したる道德を重んずと云ひて、此等三敎を斥ぞくるは寧ろ矛盾なるべし。忠孝、面目、貞正などの觀念を、日本に固有の普通心なりと云ふは何にの意義なりや。普通心に固有のものありや。然れども、局促たる多くの德育論に比較すれば、著者が大躰の意見は、まづ〳〵面白き方なるべし。

○現今の文章（上）

撫象子

左は小生が或る所にて演說せしもの〻骨骸なり、肉を着け皮を被ひて讀味する人あらば幸ひなり。

文章的の作文は一世を動かすと能はず○一世を動かすとを得べき文章は又目下切要の大思想を含畜し居らずんばある可らず。美妙、紅葉、思軒、學海、竹の舍、逍遙等の文、巧みなりと雖ども大文章にはあらず。現今の文章と稱し、時文の標本とすべきは勢ひ議論文より採擇せざるを得ず。余は二類四種を採てスペシメンと爲す。精神界に於ては、日本評論と國民之友と、女學雜誌は余に緣故あるを以て省く。世俗界に於ては、時事翁と中江篤助君と。

日本評論と國民之友　前は評論 后は國民

- 文思
  - 着眼……文學と社會改良。／政治と經濟と文學と。
  - 理想……神の天國。／民の自由國。
- 文氣
  - 不平……無神的、無宗敎的の世に慨す。／無精神的、壓制束縛的の世に慨す。
  - 熱心……神に祈り、民に敎へ、成功を確信して熱心なり。／民に贊成せしめ、民の心を奪ひ、巧利鋭敏に善導せんとを欲するが故に熱心なり。
  - 眞實……一字句も肺肝よりせざれば恥づ。直言す。／一字句も人を動かさゞれば恥づ。曲言す。
- 文粹
  - 効力……哀情鬱勃の慷慨に服す／巧辨の才に服す　同化せしむるに至ては未し。
  - 秀所……神聖高きに達し、隱微奧に徹す。／華麗目眩き、豪擘、耳聾し、巨胆、氣服す。
  - 欠典……靈の經驗なき人に分らず。／塵の經驗ある人は服せず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

- 文字
  - 結構……乱雑にして支離滅裂、たゞ眞情のゆくまゝ。初より整然と結構す、預じめ製造す。
  - 文法……西洋、支那、印度、日本。西洋、支那。
  - 措辭……俗語靈光あり、文字やゝ貧し。俗語俗入す。熟字斷嶄、字を合すれば金石を打つ如し、火を發す。
- 地位
  - 經歷……廿三年文學やゝ一變せんとする時起る、稍早し。二十年政治文學熟眠の時起る、恰も好し。
  - 現今……尙やゝ早し。既に後れたり。
  - 前途……いよ〱長ず。いよ〱後る。
- 要括
  - 批評家　共に批評家なり、觀念に富み、比喩に巧みにして、文字索々要緊に當る。共に批評家なるが故に共に親から事に當らず、文章亦共に君子長者の風なし。一は社會改良的、他は政治的。一に宗教的、他は平民的。一は天、他は地。一は未來。一は現今。
  - 文の韻　一は靜が舞へる如く又飯舞の如し、他は女學生の蹈舞の如く又樂隊の如し。一はバイヲレンの音あり、他はドラの音あり。惡しく言へば、一は役者の揃わぬ演劇、調子の合はぬ聖樂の如し、他はアホダラ經の如く、カグラの如し。

○衞生療病志

醫事新論と衞生新誌との二つ相合して題を改め、第十二號より引つゞき發兌す。

○我樂多雜誌

加賀金澤鶴鳴社より發行す。元の我樂多文庫に似て少しく品下りたものなり。

開書

○德冨猪一郎氏よりの正誤文

去る土曜日發行の女學雜誌社說中に左の文字あり

德冨猪一郎君は純粹の基督教徒にあらざるべし、左れど其新島襄君の事を言ふや、わが神とも思ふと言ひたりき。吾人は如此き評言を太甚しく嫌惡す。

余不肯と雖聊か神、人の區別を知る、又た聊か立言の趾を知る、如何に自己の愛慕し尊崇する人ありとするも、未た之を神とも思はさるなり、又た未だ神とも思ふと公言したることなきなり、余不肯と雖、聊か新島先生を知る、余未た新島先生在天の靈が、斯る神聖(プロフェン)を汚す的の言語を甘受するを知らさるなり、新島先生か永眠せらるゝや余は慟哭せり、余は左の如く叫べり、

ヲマルテイン言へると有り、血に亞で人自ら其身より出し得可きものは淚なりと、吾人は今、父とも、師とも、力とも、光明とも仰く處の新島襄先生を喪へり、之を一個人としては、恩愛限りなきの先生を喪ひ、之を社會上よりしては、日本精神的改革の案內者を喪へり、吾人は幾度か平生鐵石の心腸に對して、自ら禁ぜんとせり、然れども潸々たる血淚は、全身に溢るゝ哀悼の情を驅りて、迸り來るを奈何せん、

余か先生に附て思ふ所此の如し謂ふ所此の如し、謂はんと欲する所、又た此の如し、余か新島先生に對する情は、余自から之を知る、先生在天の靈亦必らす之を知らん、余は女學記者か、余の賤名を堂々たる論文中に揭られたるを謝すると同時に、余自から思はさる、余自から公言せさる、余か今否定する、言を余の所言として揭載せられたるを甚た、深く、切に遺憾とするもの也、

十一月十一日　　德冨猪一郎

女學雜誌記者足下

女學雜誌記者云く、前件は德冨氏が演說を聞し者より確かに轉聞したるとなれど德富氏が亦確かに否定せらるゝ所ろに據りて之を見れば、必ずや聞し人の聞たがへなるへし。斯る事は誤りなりしとを祝す。故に喜びて彼の一例を取消す。但し社說の文意に至ては少かも損する所なし。

投書家及通信者に告く

女學雜誌に文章を寄せ者しくは通信する人は一行廿七字詰になし成るべく字跡の分り易き樣に書かれたし　編者白

時事

○市會の宇川氏事件は何如ん

五月士族授産金一件の極めて八釜しき頃ろ、田口君は府に在住せざるの故を以て辭職ありしやに聞けど、宇川關の兩氏は病氣と稱して辭職ありしとに承知す。然るに、福澤諭吉氏が病氣と號して辭退せられたる時は、醫師の診斷書を要すと云つて嚴しく市會規則第八條を施行したるにも關はらず、宇川氏等が診斷書なき辭職書は其儘に受納せられ、各議員は默々として之を承知したり。所云る病なるもの、一種類を異にすることを知るべし。然るに今や彼洒々然として入來り、此れ亦た怪しむとなくして歡迎す。大奇怪の事に非ずや。

○血と肉

團子坂の菊に極慘の様を暴露し、廻向院の角力に極醜の躰をむき出しにせんとす。文明政府は風儀の爲め如此き事を制禁して可なり。

○國家、個人

圖らざりき、政治家の議論に、個人主義國家主義の討論を見んとは。啻に之のみにあらず、敎育にも國家主義個人主義の別あるよし。吾人の到底解し得る所ろに非ず。

○千歳の菊

田邊花圃女史、昨年立太子の祭典に、

あがきよのためしを契る菊の花
君ならずして誰にさゝげん

この一首を捧げたるに、今回、東宮太夫曾我子爵より千歳の菊と云へる歌書一部に御書付を添へて下し賜はりける。

○草木なりせば

津田出君、其愛孃を失へるの歎きに、

心なき草木なりせば散る花に斯るなげきは有るまじ者を

最と悲しき調なり。

○英國人と日本人との結婚

横濱ジャパン、メール新聞記者カプテン、ブリンクレー氏と田中やす女との婚姻は、英國の裁判所に於て有効と判定せられ、又タイムス新聞は左の如く論じぬ、

…此事實を以て判事パット氏は直ちに此結婚は日本に於て有効なると共に又英國に於ても有効なりと宣告したり抑も其國公認の儀式に依りて公然契約したる以上は其結婚を英國に於て間然する所ろなき者と認定する是れ英國法律の原

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

則なり…………勿論此事例に徴して論及せば英人にして曾て日本國に於て一たび日本婦人と結婚し此を離婚して後再び本國に於て結婚を擧ぐるが如き之れ二妻主義のものと認定さるゝならん此論及は必らず東洋諸國に於ける英國民を寒心せしむべし左れども決して論理上誤謬にあらざる也。

○能樂の男女混合

寳生九郎氏が辨論に云く、或人能樂の道近時大に亂れ或人男女混合の醜狀ありと云ふ、左れどかゝる論者は裴襛の女神にましますとを記憶せざるか、况や婦人にして時々舞臺に上るものあるもの未だ嘗て醜狀など名狀すべき事なきをやと。

○香港の改正婦女保護令

英國の淸徒が熱心に主張したりける香港の婦女取締法則は遂に改正せられ、黴毒撿査は全廢せられ、妓樓は悉く禁止せられき。廢娼の氣運東西ともに駸々として進歩す。

○琴

米國音樂博士チルシヤーク氏は、五柳軒姉妹が琴曲に驚歎し、日本に斯ばかりの名音樂ありやと只管らに感服せしよし。言ふ迄もなく日本のは万事緻密なり、然れども規模小さし、迚も志氣を豪發し、大志想を發表し、巨烈の激動を起し得べき力あるものにあらず。日本の風景は箱庭の如し、ガーデンの如しと云ひて感服するものは、亦た其音樂にも同樣の感服を爲すべき筈なり。但し此の賞め言葉は、孟子が管仲晏子に比べられし時に均し、別に有がたきとにあらざる也。

○男女なき世界

は主もに二つなりと、ハーパース、バザールは言へり。則はち、舞臺の上と、文學上の社界となりと。之が爲めに樣々の例を擧げ、且云はく、小公子(若松しづ子が本誌上に譯載する)の元著者バルチット夫人の如き、其文學上の收得多を以て一例となすべし、米國にて此小說を演劇に仕組と云ふ丈にて女史に八万五千弗の禮を爲しぬ、英國及其他に於る其書物の賣高は更に莫大にして、殆ど喫驚絶倒すべきほどならんと。

○キングス、ダウター

各女學校内に其會員追々增加する趣きにて、過る日に其大會ありき。所云る「王の娘」とは舊約聖書より採れる名目あれば、會員の記標に銀の十字架を用ひ上にI.H.N.(in his name)の三字を銘す。ワシントン、イルビングが姪に當たるセヲドール、イルビング夫人が、十七年以前アメリカに於て始じめて創立し、カナダのイルビング學校にて第一初隊を編製した

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

るより起る。十八一組となりて思ひ〳〵の働らきを為すの工夫至つて宜し。たゞ我國に於ては何とか日本名稱を用ひては何如に。依然洋名を附すると少しく忌わしき心地す。

○女學生と外國語

外國語を學ぶに鋭敏なるは、男子寧しろ女性に及ばざるが如し。故に今の日本にても、英語を輕やかに談じ、英文を巧みに書くと、大學の書生すら遠く及ばざる女學生至て多し。單に外國語の教師としては、女學生大に優れる所ろあるを覺ゆ。英米にても此説切りに行わる。ツルー、ライト新聞の近號に云はく、驚ろくべき婦人とはジョナ、ベーカー（Miss Joanna Baker）孃あるかな、彼女は此度アイヲワ州、シムプソン大學の希臘語及希臘文學の教授として其父に代りたり、彼女は四歳にして希臘語を學びはじめ、八歳にしてゼノフホンを容易く讀み、十四才にして希臘文を草し、今や十六才にして希臘語の教授となりぬと。此外著名のラムセー孃（今のパットソン夫人）あり將にヘロドタス譯を出版せんとし、又ハリソン孃はパウサニアス註を作らんとす。皆共に外國語に於ける驚ろくべきの巧者ありと。

○山内善三郎氏夫人

府下靈岸島の商人山内氏の夫人は、困苦の間だより立身せし昔を忘れじとて、豪商の今の身にても尙ほ毎早朝卒先して立働らかるゝ由、善行致つて多しとも聞く。角筈村獨立女學校の維持困難なる由を傳聞し、此度一ヶ年間毎月十五圓づゝ寄附せんとを申込まれたる趣き也。

○岩田そう子

駿州菅沼村岩田儀三郎氏の長女にて今年二十八才なり幼けなきより機織の遊びを好み十二の比より實地に之を習ひ、明治十七年より地方織物巡回教師となる、夫より糸質撰良の事を切要と感じ密かに家を出でゝ上州新町に至り新村の養蠶改良會社主荻原氏によりて蠶業を習ひ又去りて富岡製糸塲に入り、再たび養蠶業の薀奥を極めんとて藤岡町高山社續習所に入り、今年六月甲科を卒業して郷に歸りしが、尙一層の研窮を爲さんとて西原養蠶試驗塲に到り入塲せんとを願ひしに女性あればとて許されず、止を得ず松永伍作氏に就きて勉勵し、遂に同氏の紹介もて手傳ひの名義にて入塲し九月卒業して歸郷し、今は盛んに各地に演說して切りに蠶業の進歩を計り居らるゝ由。

○製糸女工塲

山梨病院、飯島藏氏の說に、製糸女工塲の衛生取締は今后左の三條を加へずんば不可なりと。

一　製糸塲主は少なくも工女の半數を容ろべき家屋を有し遠所より來りて業に就く工女の寢食起臥の塲に充つべし。

二　此工女の舍の監督は塲主の義務に屬す。

三　當該官廳は時々監督吏をして製糸塲を巡覽せしめ衛生上諸般の狀況に注意すべし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

通信

大坂通信　通信員　油谷治郎報

●信愛女學校及和佛女學校　は川口三番にあり同校内に存す天主教教師の設くる所にして前校は尋常小學科及本科に分つ。本科は四年、通常普通學に簡易なる佛語を教ゆ授業時間は一週三十六時間(体操を除く)一日七時間の割合なり教員日本女教師三名佛人二名(教師は兩校兼任なり)生徒小學科五十名(内補助にかゝるもの半)本科五十名にして未た卒業生なし、和佛小學校は學年五年佛語を以て高等普通學を教授する所とす生徒僅に一名のみ
此校生徒を監する最嚴にして其生徒の往復通信凡そ校長先づ開封撿閲する規則なり

●相愛女學校　津村別院内に設く創立は二十一年六月
和佛女學校は本年九月より設け本月初旬より授業せり
維持法　賛成員を募りて(三百人)維持し來りしも月謝と其收入は以て支出に足らず本年に至りて本願寺の所屬となりて補助され居れり
教員は　十二人(男四人――僧侶二人、女八人――内三名裁縫教師)
教頭は　中學校卒業生小田實乘(僧)氏なり
生徒は　夏期前二百三十名に至れりと雖も九月以後出校するもの百五十名なりと中大阪在住者は百二十名を占む未た卒業せず
學期は　四年にして學科は倫理(佛經正信經を講す)國語漢文(簡易)英語(簡易)數學(幾何簿記)地理、歷史(日本歷史のみ萬國史は教へず)理科(生理衛生の大意)家事(衣食住より金錢出納育兒法家庭教育)心理の大意習字圖畫、和洋裁縫編物刺繡音樂禮節、揷花、割烹、茶。
猶卒業生へは專修科を置き裁縫科を專修する便を與ふ時間は毎日六時間土曜日半日授業午後は花。茶。等を教ゆ裁縫科は大凡毎日二時間
此校は主として大坂人士の氣に入る校にして此校の景況は以て其大坂住人の女子の有樣を窺ふに足り學科を委敷觀察せば以て其向へ利するに足るべし

●綜藝種智院女子部院主は　純然たる眞言宗の僧なり
創立　二十一年一月
維持法は　創立員八十名と誘德會にて僧侶等の組織する會(五十人)より維持す
教員　十名内(男五女五)名の内三人は手藝を受持つ
生徒　は夏期前百二十八人今九十八人内手藝科三十八人(生徒七分大阪人三分は他邦より來る)
學年　豫科二年、本科三年、手藝三年、學科通常普通學但倫理は一僧毎週二度說話をなす
手藝科、裁縫、編物、容儀揷花、點茶、等
右三校は主に當市の土着人士の女子を教育するものなれば其學校の景況が即大阪人の女子の景況たるなりなほ高等女學校、師範學校女子部、及基督教的の學校につき取調中なれば詳細は次信に讓る

片々

●婦人慈善會員の總會　婦人慈善會にては十三、十四、十五の三日間鹿鳴舘に於て開く慈善會陳列品各區受持の貴婦人に附隨する人々の撰擧を行ひ其他種々の協議を遂ぐる爲め過日總會を開きたり今各區受持の人々中重なる人を記すれば左の如し
第一區　山縣伯爵夫人、樺山子爵夫人、山尾子爵夫人◎第二區　三條公爵夫人、岩崎正四位夫人、近衛公爵夫人◎第三區　毛利公爵夫人、蜂須賀侯爵夫人、前田侯爵夫人◎第四區　鍋島侯爵夫人、松方伯爵夫人、井上男爵夫人◎第五區三好子爵夫人、高崎男爵夫人、小笠原伯爵夫人◎茶店　九鬼從三位夫人、後藤伯爵夫人、青木子爵夫人、陸奥從二位夫人、三宮從四位夫人

●慈善產院　本所區橫網町二丁目十四番地の安生堂產院々長村松志保子は廣く妊婦を入院せしめん爲め今度新たに分娩室を增築せしが其目的は赤貧にして臨月に際し產婆を聘するの資力なく隣保老嫗の手を藉りて纔かに分娩し不測の禍ひに陷る者を救濟せん爲めと、一は產婆生徒に實地の手術を練磨せしめん爲めとの旨意にて貴婦人等の紅粧費中より義捐を募るとなすよし

●上毛青年會の熱心なる廢娼論者石島良三郎氏は前橋暴動に關したる嫌疑にて去る三日拘引せられたるよし。

●婦人慈善會　ミラー夫人平野カテ子等の發企にて橫濱に設立せし仝會は爾後每土曜日に會合して編物等を爲して其收入金を慈善の資に充つる筈のよし役員は三浦クワ長野スキ平野カテ子の三子なりと。

●公娼全廢請願書提出　去る八日橫濱青年會より佐々木受次郎氏を以て當時開會中の神奈川縣會へ仝請願書を提出したり。

●フホーセット　著名なる同夫人及び今年學者社會を驚ろかしたる令孃フヒリツプ、フホーセット女史は來年二月アメリカの女權擴張會に臨まん爲に用意中にて、米國の同志者は非常の歡迎を爲さんと仕度中。

●ハワイの女子靑年會　は中々にて盛んにて過日一百弗を募金し傳道會社の助けとなしぬ。

●ウイラード孃　其の五十年間自叙傳の所謂一万弗を米國婦人禁酒會に寄附し更に同收益の三千弗をも寄附せんとしたるを會員一同は受くるとなく强いて之を返し以て孃が住宅レスト、カツテージの修繕に用ひぬ。

●ジヨンス、ホプキンス大學　に附屬すべき女子醫科大學設立入費十万弗のうち六万弗は此度集まりける。

●週報

官令　十日印紙類拂下規則裁可公布せらる
宮廷　天皇　皇后兩陛下は赤阪離宮にて觀菊會の御催あり
政治　十一日立憲自由黨臨時評議員會を開く●八日貴族院議員政務調査委員會を華族會舘に開く
教育　八日駒場農學校に於て農科大學運動會を催す●第二及第四高等中學校にては去る四日勅語奉讀式を行ふ
叢報　七日伯爵勅撰多額納税の三種議員愛宕舘に會す●八日大隈伯負傷後第二回目の參内を爲す●十日衆議員帝國ホテルに大懇親會を催したり●七日國民新聞解停せらる●十一日井上伯家族を纏めて山口に赴く●

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

クリスマス最良の遺物用

クリスマスも既に近くなり、正月も早や遠からず、子供衆又は家内にて樂しみに讀む面白き書物を作らんとて、左の味ひ深き教訓のおはなしを出版す。

一冊　七錢郵税二錢
十冊　一割引
五十冊以上　二割引
百冊以上　二割半引

子供が讀みて面白く、御婦人が讀みて爲になり、哲學者が讀みて感服する趣向なり。繪は彩色にて、文章は流麗丸を轉ずるが如し。遺物には最上なり。

第三版

百人一首講義

近刊

再版も賣切れ久しく品切と成る

十二月初旬迄に出來上り可申候。

聖書之友月報改正豫告

記載目録

躰裁　從來月報の二ッ折位(從七寸横五寸)表紙共三十六ページとなし美麗にして携帶に便なる小册子となす
從前の通り社説、論説、雜報、婦人のため、小兒のため、日課小注、雜録、通信、廣告等の諸欄とす

社説　宗教上の出來事を論辨し或は聖書に關し或は教義に關し意見を發表すべし

論説　從來多く飜譯躰のものを掲載せしが將來は毎號内外諸名家の投稿を記載すべし其所論は多く聖經のことに關す

日課小註　從前は餘り平易に失するの傾向ありしが將來紙面の許す限りは辭句大趣意の説明をなし終りに教誡を與ふべし

雜録　從前に倍し材料を精選し史傳、逸話、訓言或は名家の短篇等を記載すべし

婦人欄　童女にも母親にも女生にも益ある談話、賢婦、淑女の傳記等を載す

小兒欄　從來の如く談話躰に平易にして有益なる譬話を載す目的とする處は小兒の好友たらん事を期す

通信　從來大に此欄に注意を欠きたれば以後は各地の會友より續々寄送を乞ふことせり故に掲る處重に聖書之友の運動に關すれども又廣く教情をも報ぜんとす

雜報　内外キリスト教界の最近の出來事一私人の佳話等を掲載す

銅版密畫　從前毎號第一頁に掲げたる圖を廢し時に新規なる銅版密畫を添ゆることあるべし

附録　として從前の通り毎號リーフレットを添へ又時々聖書の繪解を添ゆることあるべし

廣告　は精細と勉強とを以て廣く募集す又紙面の許す限りは交換廣告の請めに應ずべし

定價				
一部	四錢	半ヶ年前金	郵税共	二十五錢
十部	卅八錢	一ヶ年前金	郵税共	四十八錢

二十四年度日課表　は本月中に出版仕候に付入會申込の順序に順ひ發送仕候に付名地の委員諸君は速に會費御取集入會御申込被下度候

明治廿三年十一月

東京々橋區彌左衛門町拾五番地

聖書之友

森田商店

森田商店ヘルス發賣廣告

THE HEALTH.

補血滋養

ヘルス

定價

分量	定價	郵税
一合分	三錢	二錢
六合分	十六錢	二錢
一升二合分	二十八錢	四錢
三升分	六十五錢	四錢
五升分	一圓	六錢

用法、裝置ノ匙一盃ヲ沸湯五勺ニ解キ二盃ヲ一合ノ割ニ解キ飲用スヘシ

ヘルス ハ多量ノ滋養分ヲ含有スル了牛乳ニ勝リ加フルニ佳良ノ香味ヲ有シ且ツ久シキヲ經ルモ腐敗變味ノ憂ナキト郵送スレノ便アルトハ以テ旅行者ノ携帶ニ適シ以テ全國ノ顧客ヲ滿足セシムルニ足ル天下無比ノ最良滋養飲料ナリ

ヘルス ハ性分ノ藥ニナルコト「すつぽん」ニ勝ル特効ヲ有スルヲ以テ過度ニ精神ヲ勞スル人、病後ノ衰弱、婦人産前産後、記臆カノ薄弱ナル人、忍耐力ノ乏キ人、衰弱諸症、氣鬱症、肺病等ニ用ユレバ内部ヲ補ヒ氣力ヲ增シ精神ヲ活潑ニスル効アル天下無比ノ最良滋養飲料ナリ

ヘルス ハ前述ノ効能ヲ有スルヲ以テ身體強壯ナル人ト雖モ常々飲用スレバ一層健康ヲ保チ記臆力ヲ增シ忍耐力ヲ強メ諸種ノ疾病ニ犯サレザル効アリ且ツ體裁最モ高雅ナルヲ以テ見舞土産等ニハ頗ル好適セル天下無比ノ最良滋養飲料ナリ

NOTICE!

●爲替ハ神田郵便局ヘ振込アレ●郵券代用ハ十六錢以下ニ限リ五厘印紙ニテ一割增シ●取次販賣所ハ各地ノ洋酒店、罐詰、牛肉、牛乳、賣藥商、其他干物、西洋料理店、等ニ發賣セリ●二錢切手ヲ封入シ申込アレバ大家ノ衛生論精細ト効用書ヲ送附スベシ

NOTICE

●取次望ノ者ハ申込ニナレバ（二錢ヲ封シ）精細ノ取次規則送附ス可シ
市中ハ注文次第（十六錢以上）即時配達ス

ヘルス諸新聞ノ公評

東京新報（九月廿九日）森田商店ノ滋養「ヘルス」物ハ必要アリテ起ル 近來我邦人ハ切ニ衛生論ヲ稱ヘ滋養食ノ必要ヲ論ズレド我國ハ未ダ牧畜家畜ノ業盛ナラス徒ラニ空論ニ流レ常ニ遺憾ノ思ヒアリシガ今度府下森田商店ヨリ發賣スル「ヘルス」ハ尤モ多量ノ滋養ヲ有シ且ツ味甘美ニシテ久キヲ過ルモ腐敗セザレバ大ニ衛生家ノ遺憾ヲ滿足セシメ日本全國ノ需用者ヲ滿足セシムルニ足ラン

東京日々新聞（十月五日）ヘルス 「ヘルス」ハ南洋諸島ニ產スル鼈甲肉ヲ以テ製スル者ニテ其味ノ甘美ナルハ言フ迄モナク其滋養分ハ却テ牛乳ニ優ル所アリトテ 歐洲紳士ノ珍重スル所ナリ 此頃南洋貿易ニ熱心ナル府下森田源右衛門氏ハ我邦ヘ之ヲ賞撰メントテ見本ヲ本社ヘ寄セタルガ其味美ニシテ多量ノ滋養分アリ 且ツ貯藏ニ堪ヘル良品ト見エタリ

兵事新報（九月十三日）滋養「ヘルス」 日本人ノ勇ニシテ智ナルハ歐米人ノ常ニ稱賛シ感心スル所ナルガ體格ノ大小ニ至リテハ聊カ遺憾ナキ能ハズ 是ノ其原因種々ナランガ滋養食ニ注意スルト否トハ又其原因ノ一ナラン 而シ我國未ダ牧畜盛ナラズ牛肉牛乳等ノ滋養食ハ未ダ需用者ヲ滿足セシムルニ足ラズ 志アル者ハ常ニ憂慮セシ處ナルガ今度滋養「ヘルス」ガ我國ニ發賣セラル丶所トナリ 本社ヘモ寄送セラレシガ且滋養甘美ニシテ腐敗ノ憂ナク且ツ郵送スルノ便利アルハ 容易ニ全國ノ需用者ヲ滿足セシムルニ足ルヲ以テ 我日本國人ノ體格ヲ補養スル了少々ニアラサル可シ無病ニシテ萬年ノ快樂ヲ得ント欲スルモノハ常用スベキ良藥ナリ

ヘルス元發賣

東京市神田區鍛冶町七番地

M 森田商店

特約賣販所

所在	名稱
日本橋區兩國米澤町藥舖	大木口哲
京橋區銀座一丁目藥舖	佐々木玄兵衛
京橋區傳馬町二丁目洋酒食料器械	堺家商店
西京五條通リ幸町西ヘ入藥舖	山本發陽堂
岩手縣北九戸郡輕米	關太郎
京橋區銀座一丁目洋酒食料	山陽堂
京橋區尾張町一丁目洋酒問屋	清水谷商店
日本橋區上槇町藥舖	安川桑太郎
大阪高津宮西坂ノ下藥舖	鳥谷市兵衛
伊勢松坂魚町藥店	田中愛生堂
日本橋區村松町	岩浪長藏
日本橋區瀨戸物町	玉置金八
日本橋區馬喰町	平尾發年
神田區南神保町	南鳥軒
神田區表神保町	伊澤弘芳
神田區小川町	丸屋藥舖
神田區小川町	山城屋留藏
神田區小川町	岩原商府
神田區淡路町	龜屋洋酒店
赤坂區一ツ木町	松下支店
本鄉區眞砂町	精美堂
本鄉五丁目	青木堂
本鄉區眞砂町	尾澤蒼生堂
牛込區南山代町	遠藤兼太郎
牛込區田町	加藤福松
淺草區吾妻橋際	倉島勘藏
四ツ谷區傳馬町	渡邊服兵衛
四ツ谷區傳馬町	辻商店
日本橋區藥研堀	中尾商店
神田區表神保町	荒川忠藏
小石川區水道町	中村清助

記臆セヨ記臆!

東京神田區鍛冶町七番地 森田商店

東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に渉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす毎科受持の教員孰れも熟達善良なり然して本校の教授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所なり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地

東洋英和女學校

加減順氣散

婦人血の道子宮より發る的痛男女四季感冒頭痛其他は包書に委し

定價四錢五厘

振出しぐすり

本家

東京日本橋區通一丁目

須原屋

北畠茂兵衛

女學校寄宿生取締及ヒ英語通辨ヲナシ得ル基督教信者ノ婦人ヲ雇入タシ望ノ方ハ當校エ來談アレ

芝區三田功運町三十番地

私立 **普連土女學校**

●五種ノ廣告

●今般本會員一致議決ニ依リ護信女子談話會ト改稱ス

●本會ヨリ創立スル私立日本事業女學校建築迄假學校ヲ左記片書ノ地立正閣ノ内ニ設置シ總テ本校建築ノ事務所トシ併セテ右談話會ノ事務所ヲ同閣ノ内ニ移ス

●本校ノ目的ハ窮民女子ヲ養成スル爲實業ヲ專門トス

●生徒三百名ヲ募集ス内止ヲ得ザル者ハ五十名ヲ限リ寄宿ヲ許ス委細ハ校則ニ記載ス校則及會則御入用ノ諸君ハ郵稅金貮錢ヲ投ゼラレヨ直チニ御送附申可シ

●妾等昨明治廿二年十月女子談話會創立ノ際實業科ヲ設置シ本會ノ維持方ト爲ス計畫ナリシモ無資無產ニシテ之ヲ設置スルノ方策ナキ儘ニ世ノ無神經者ノ冷評ヲモ顧リミズ各所ニ演說會ヲ開キ贊成員ヲ募ルヿ一回ニ一名亦ハ二名ト募集中時々會員中ニ障害スルモノ入込居リ爲ニ妾等ハ種々艱苦ヲ蒙リ遷延セシモ屈シテ止マザレバ追々贊成者ノ厚志義捐金ヲ投ゼラレ其補助ノ功顯ハレ今日玆ニ至ル尙ホ世上同情同感ノ兄弟姉妹ヨ希クハ妾等ノ微衷ヲ憐ミ今一倍補助翼贊ノ榮ヲ賜ハバ本校建築ノ結果モ亦速ナリ果テ玆ニ至ラバ妾等ハ誓テ夙夜精勵謹デ其功ヲ奏スルニ怠ラズ生ヲ敎授ノ犧牲ニ供シ幾萬ノ窮民子女ヲ養成セン世上諸君ヨ下民ノ狀態ヲ憐ミ女子ノ地位ヲ洞察シ紅淚數行ヲ惜ム勿レ此數行ノ紅淚奮化シテ本校ノ基ヲ固ムル礎タラシメヨ依テ廣ク本校建築費ヲ募ル有志諸君ハ應分ノ義捐金ヲ希望ス

東京市日本橋區蠣売町二丁目十四番地立正閣内
護信女子談話會長私立日本事業女學校幹事

明治廿二年十二月八日

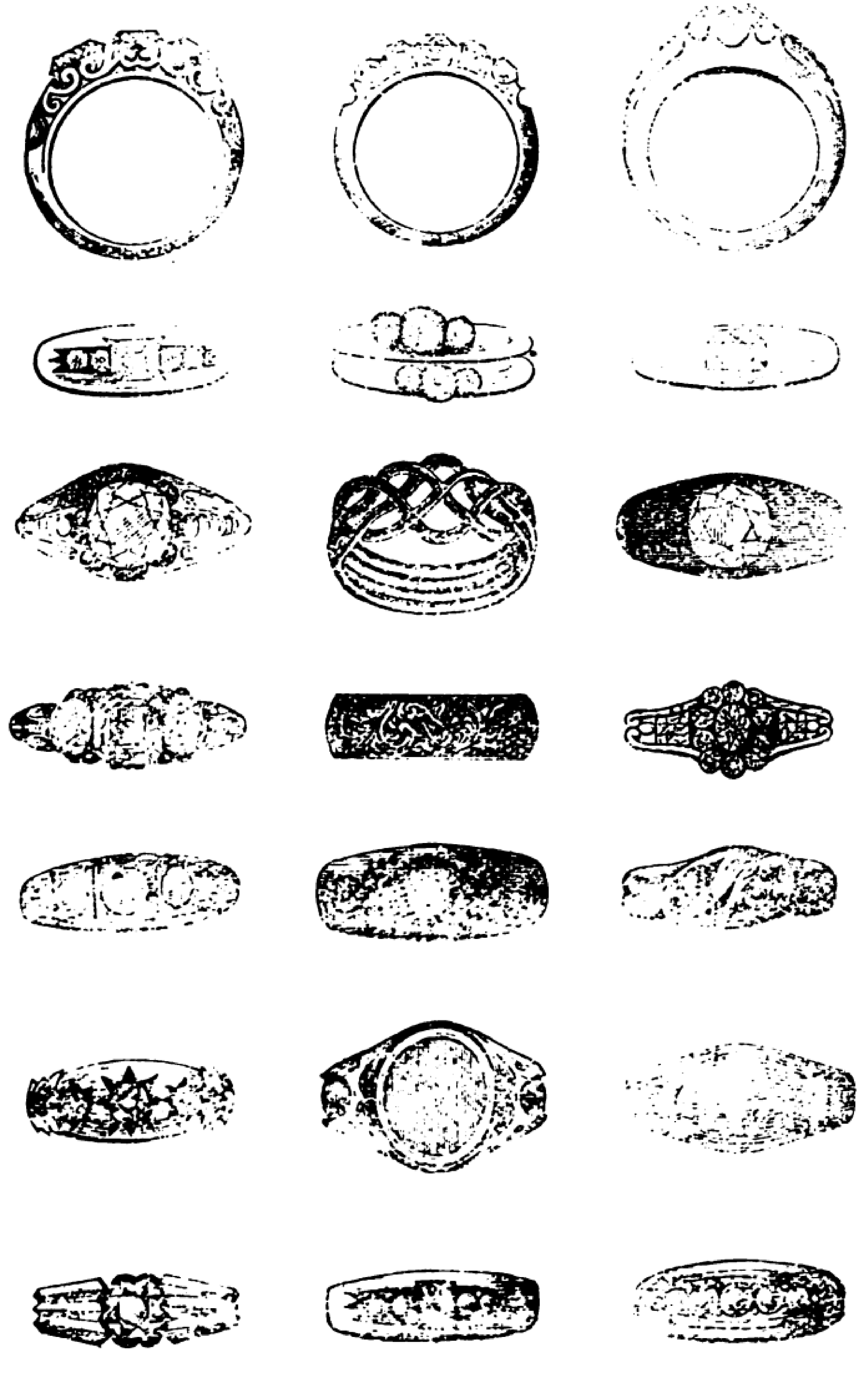
創立委員 **川口雲井**

右談話會幹事長右女學校長

右 同 **宮澤歌子**

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

●天賞堂發賣品第三　指輪ノ部



●金銀時計●同附屬品 金鎖磁石鉛筆寫眞入各種 ●黄金指環 見留

印付寶石入各種 ●金縁眼鏡●洋服裝飾品 手釦ピン腕輪ブローチ各種 ●印材 金銀銅玉石牙角各種篆刻應貴囑

此他貴金屬及寶石入細工物隨御好調進仕候

東京市京橋區尾張町二丁目十八番地

天賞堂

定價	
一冊	六錢　郵稅五厘（但府內無郵稅）
十冊	五拾八錢　郵稅五錢（同　前）
半年分	壹圓四拾三錢　府外は壹圓六拾九錢
一年分	貳圓六拾錢　府外は貳圓十二錢

廣告料		
一行	一回（廿七字詰）	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

東京市麴町區下六番町六番地

發行所　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三

遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY